

第三條 國庫債券ハ無記名利札附トシ其種類ハ貳拾五圓、五拾圓、百圓、五百圓、一圓及五千圓
壹萬圓ノ七種トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名ト爲スコトヲ得

第四條 國庫債券元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年以内ニ償還スルモノトス

第五條 國庫債券ノ利子ハ毎年六月及十二月ニ於テ支拂フモノトス

第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付最低ヲ九拾五圓トス

第七條 國庫債券ノ應募申込期間ハ明治三十七年三月一日ヨリ同月十日マテトス

第八條 應募申込人ハ應募高應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金貳
圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行支店其他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但保證金ニハ利
子ヲ附セス

第九條 國庫債券應募高需要額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次債
券ヲ交付シ需要ニ滿ツルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少スルモノト
ス但貳百圓以下ノ應募者ニハ之ヲ減少セス

第十條 申込ハ明治三十七年三月二十一日マテニ確定スルモノトス
確定ノ上ハ其旨申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但第一回拂込ハ保證金
ヲ以テ之ニ充ツ

第一回 三月二十一日 貳圓(券面五圓ニ付)

第二回 四月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前)

第三回 五月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前)

第四回 七月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前)

第五回 八月十六日ヨリ同月二十五日迄 拾圓(同前)

第六回 九月十六日ヨリ同月二十四日迄 拾五圓(同前)

第七回 十月十七日ヨリ同月二十五日迄 拾五圓(同前)

第八回 十一月十六日ヨリ同月二十五日迄 八圓(同前)

發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二回拂込ト共ニ其差額ヲ拂込ムヘシ

第十二條 應募者ノ都合ニ依リ應募額ノ全部又ハ一部ヲ一時ニ拂込ミ若クハ後期ノ分ヲ前期
ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 國庫債券ノ應募者第二回ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込
ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十四條 前條ノ假債券ハ賣買讓與シ及質ト爲スヲ得但應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又

ハ質入等ノ事故ニ因リ假債券ヲ呈示スルヲ能ハサル場合ニ於テ其旨ヲ證明スル片ハ同令第三條ニ據リ其拂込ヲ假債券ニ記入スル代ニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ交付スルコトヲ得

第十五條 假債券ヲ紛失シ又ハ消滅シタルモノアルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其實事ヲ日本銀行本支店若ハ代理店ニ證明シ更ニ假債券ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 (削除)

第二款 第二回國庫債券發行規程

第二回國庫債券發行規程(明治三十七年五月大藏省令第十七號 同三十九年同省令第二三號送二次改正)

第一條 政府ハ明治三十七年法律第一號ニ依リ國庫債券壹億圓ヲ發行ス

第二條 國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第三條 國庫債券ハ無記名利札附トシ其種類ハ貳拾五圓、五拾圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及壹萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名ト爲スコトヲ得

第四條 國庫債券元金ハ募集ノ年ヨリ七箇年以内ニ償還スルモノトス

第五條 國庫債券ノ利子ハ毎年三月及九月ニ於テ支拂フモノトス

第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其最低ヲ九拾貳圓トス

第七條 國庫債券ノ應募申込期間ハ明治三十七年六月十日ヨリ同月十六日マテトス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ依リ六月十日前ト雖モ申込ヲ受クルコトヲ得

第八條 應募申込人ハ應募高、應募價格及住所姓名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金貳圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利子ヲ附セス

第九條 國庫債券應募高、需要額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次債券ヲ交付シ需要額ニ滿ツルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少スルモノトス

第十條 申込ハ明治三十七年六月二十五日マテニ確定スルモノトス
確定ノ上ハ其旨申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但シ第一回拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一回 明治三十七年六月二十五日 貳圓(券面百圓ニ付)

第二回 同年七月十六日ヨリ同月二十五日マテ 拾圓(同)

第三回 同年九月十六日ヨリ同月二十五日マテ 拾圓(同)

第四回 同年十月十八日ヨリ同月二十五日マテ 拾圓(同)

第五回 同年十一月十六日ヨリ同月二十五日マテ 拾圓(同)

第六回 同年十二月十六日ヨリ同月二十五日マテ 五圓(同)

第七回 明治三十八年一月十六日ヨリ同月二十五日マテ 拾五圓(同)

第八回 同年二月十六日ヨリ同月二十五日マテ 拾五圓(同)

第九回 同年三月十六日ヨリ同月二十五日マテ 拾五圓(同)

發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二回拂込ト共ニ其差額ヲ拂込ムハシ

第十二條 應募者ノ都合ニ依リ應募額ノ全部又ハ一部ヲ一時ニ拂込ミ若クハ後期ノ分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 國庫債券ノ應募者第二回ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十四條 前條ノ假債券ハ賣買讓與シ及質ト爲スコトヲ得但應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假債券ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其旨ヲ證明スルトキハ同令第三條ニ據リ其拂込ヲ假債券ニ記入スル代ニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ交付スルコト

ヲ得

第十五條 假債券ヲ紛失シ又ハ消滅シタルモノアルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其事實ヲ

日本銀行本支店若クハ代理店ニ證明シ更ニ假債券ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 (削除)

第四款 第三回國庫債券發行規程

第三回國庫債券發行規程(明治三十七年十月大藏省令第四一號 同三十九年同省令第二三號ヲ以テ改正)

第一條 政府ハ明治三十七年法律第一號ニ依リ國庫債券八千萬圓ヲ發行ス

第二條 國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第三條 國庫債券ハ無記名札附トシ其種類ハ貳拾五圓、五拾圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及壹萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トナスコトヲ得

第四條 國庫債券ノ元金ハ明治三十八年ヨリ七箇年以内ニ償還スルモノトス

第五條 國庫債券ノ利子ハ毎年三月及九月ニ於テ仕拂フモノトス

第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其最低ヲ九拾貳圓トス

第七條 國庫債券ノ應募申込期間ハ明治三十七年十月三十一日ヨリ十一月七日マテトス但シ

取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ依リ十月三十一日前ト雖モ申込ヲ受クルコトヲ得
第八條 應募申込人ハ應募高、應募價格及住所姓名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付貳圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利子ヲ付セズ

前項ノ應募價格ニハ拾錢未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ得ス

第九條 國庫債券應募高、需要額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次債券ヲ交付シ需要額ニ滿ツルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少スルモノトス

第十條 申込ハ明治三十七年十一月十八日マテニ確定スルモノトス

確定ノ上ハ其旨ヲ申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

- 第一期 明治三十七年十一月十八日 貳圓(額面百圓ニ付)
- 第二期 同年十二月十六日ヨリ同月二十六日マテ 拾圓(同)
- 第三期 同三十八年一月十六日ヨリ同月二十五日マテ 五圓(同)

- 第四期 同年二月十六日ヨリ同月二十五日マテ 拾圓(同)
- 第五期 同年三月十六日ヨリ同月二十五日マテ 拾五圓(同)
- 第六期 同年四月十七日ヨリ同月二十六日マテ 貳拾圓(同)
- 第七期 同年五月十六日ヨリ同月二十五日マテ 貳拾圓(同)
- 第八期 同年六月十六日ヨリ同月二十六日マテ 拾圓(同)

發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其差額ヲ拂込ムヘシ

第十二條 應募者ノ都合ニ依リ後ノ一期若クハ數期分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 明治三十八年九月渡以前ノ利子ハ第二條ノ利率ニ拘ラス左ノ區別ニ依リ仕拂フモノトス

- 一 第四期以前ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年三月ニ於テ額面百圓ニ付金六拾參錢同年九月ニ於テ額面百圓ニ付金參圓ノ割合ヲ以テ利子ヲ支拂フ
- 二 第五期以後ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年九月ニ於テ額面百圓ニ付金貳圓貳拾七錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ

第十四條 國庫債券ノ拂込ヲ延滞シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金百圓ニ付キ日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徴收スヘシ

拂込期日後三箇月ヲ過キ尙ホ拂込ヲ爲ササルトキハ應募ノ申込ヲ無効トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ沒收ス

第十五條 國庫債券ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十六條 前條ノ假債券ハ賣買讓與シ及ヒ質ト爲スコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス但シ應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假債券ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其旨ヲ證明スルトキハ同令第三條ニ依リ其應募ヲ假債券ニ記入スル代リニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ交付スルコトヲ得

第十七條 第十四條第二項ノ場合ニ於テ無効ト爲リタル假債券ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第十八條 假債券ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假債券ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假債券ヲ發見シタル者ハ速ニ其旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ツヘシ此場合ニ於テ既ニ代假債券ヲ交付ヲ了リタルトキハ原假債券ヲ返還セシム其交付

手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルハシ

第十九條 (削除)

第二十條 (削除)

第五款 第四回國庫債券發行規程

第四回國庫債券發行規程(明治三十八年二月大藏省令第八號)

第一條 政府ハ明治三十八年法律第十二號ニ依リ國庫債券壹億圓ヲ發行ス

第二條 國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ六トス

第三條 國庫債券ハ無記名利札附トシ其ノ種類ハ貳拾五圓、五拾圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及壹萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名ト爲スコトヲ得

第四條 國庫債券ノ元金ハ明治三十八年九月ヨリ滿七年以内ニ償還スルモノトス

第五條 國庫債券ノ利子ハ毎年六月及十二月ニ於テ仕拂フモノトス

第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其ノ最低ヲ九拾圓トス

第七條 應募申込期間ハ明治三十八年三月二十五日ヨリ同月三十一日マテトス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ依リ三月二十五日前ト雖モ其ノ申込ヲ受クルコトヲ得

第八條 應募者申込人ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金四圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其ノ他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利子ヲ附セス

前項ノ應募價格ニハ拾錢位ニ滿タサル端數ヲ付スルコトヲ得ス

第九條 國庫債券應募高、需要額ニ超過スルトキハ其ノ價格ノ高キモノヨリ順次之ヲ採リ需要額ニ滿ツルニ至リテ止ム其ノ價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少スルモノトス

第十條 申込ハ明治三十八年四月十日マテニ確定スルモノトス
確定ノ上ハ其ノ旨ヲ申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期 明治三十八年四月十日

金四圓(額面百圓ニ付)

第二期 同年四月二十二日ヨリ同月二十九日マテ

金拾六圓(同上)

第三期 同年五月十六日ヨリ同月二十五日マテ

金貳拾圓(同上)

第四期 同年六月十六日ヨリ同月二十六日マテ

金貳拾圓(同上)

第五期 同年七月十七日ヨリ同月二十六日マテ

金貳拾圓(同上)

第六期 同年八月十六日ヨリ同月二十五日マテ 金拾圓(同上)

發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其ノ差額ヲ拂込ムヘシ

第十二條 應募者ノ都合ニ依リ後ノ一期若ハ數期分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 明治三十八年十二月渡以前ノ利子ハ第二條ノ利率ニ拘ハラズ左ノ區別ニ依リ仕拂

フモノトス

一 第三期以前ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年六月ニ於テ額面百圓ニ

付金六拾五錢、同年十二月ニ於テ額面百圓ニ付金參圓貳拾五錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂

フ

二 第四期以後ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年十二月ニ於テ額面百圓

ニ付金參拾壹錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ

第十四條 國庫債券ノ拂込ヲ延滞シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金

百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徴收スヘシ

拂込期日後三箇月ヲ過キ尙ホ拂込ヲ爲ササルトキハ應募ノ申込ヲ無効トシ既ニ拂込ミタル

金額ハ之ヲ沒收ス

第十五條 國庫債券ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込

ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十六條 前條ノ假債券ハ賣買讓與シ及質ト爲スコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス但シ應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假債券ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ旨ヲ證明スルトキハ同令第三條ニ依リ其ノ拂込ヲ假債券ニ記入スル代リニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ交付スルコトヲ得

第十七條 第十四條第二項ノ場合ニ於テ無効ト爲リタル假債券ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第十八條 假債券ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假債券ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假債券ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假債券ノ交付ヲ了リタルトキハ原假債券ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第十九條 國庫債券ノ紛失又ハ滅失ニ因リ代假債券ノ交付アリタル後原假債券ヲ發見シタル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

國庫債券ノ利札ニ付テモ之ニ準ス

第二十條 國庫債券ニ關スル取扱順序ハ本令ニ規定シタルモノ、外明治十九年大藏省令第三十號「整理公債取扱順序」ニ準據ス

第六款 第五回國庫債券發行規程

第五回國庫債券發行規程(明治三十八年四月大藏省令第二六號 同三十九年同省令第二三號ヲ以テ改正)

第一條 政府ハ明治三十八年法律第十二號ニ依リ國庫債券壹億圓ヲ發行ス

第二條 國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ六トス

第三條 國庫債券ハ無記名利札附トシ其ノ種類ハ貳拾五圓、五拾圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及壹萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名ト爲スコトヲ得

第四條 國庫債券ノ元金ハ明治三十八年十一月ヨリ滿七箇年以内ニ償還スルモノトス

第五條 國庫債券ノ利子ハ毎年三月及九月ニ於テ仕拂フモノトス

第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其ノ最低ヲ九拾圓トス

第七條 應募申込期間ハ明治三十八年五月一日ヨリ同月五日マテトス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ依リ五月一日前ト雖モ其ノ申込ヲ受クルコトヲ得

第八條 應募申込人ハ應募高應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金四圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其ノ他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利子ヲ附セス

前項ノ應募價格ニハ拾錢位ニ滿タサル端數ヲ付スルコトヲ得ス

第九條 國庫債券應募高需要額ニ超過スルトキハ其ノ價格ノ高キモノヨリ順次之ヲ採リ需要額ニ滿ツルニ至リテ止ム其ノ價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少シ割當高貳拾五圓ニ滿タサルモノハ之ヲ除キ更ニ之ヲ貳拾五圓以上ノ分ニ配當ス

第十條 申込ハ明治三十八年五月十五日マテニ確定スルモノトス

確定ノ上ハ其ノ旨ヲ申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期 明治三十八年五月十五日 金四圓(額面百圓ニ付)

第二期 同年六月十六日ヨリ同月二十日マテ 金拾圓(同上)

第三期 同年七月十七日ヨリ同月二十六日マテ 金拾六圓(同上)

第四期 同年八月十六日ヨリ同月二十五日マテ 金拾圓(同上)

第五期 同年九月十六日ヨリ同月二十五日マテ 金參拾圓(同上)

第六期 同年十月十六日ヨリ同月二十五日マテ 金貳拾圓(同上)

發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其ノ差額ヲ拂込ムヘシ

第十二條 應募者ノ都合ニ依リ後ノ一期若ハ數期分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 明治三十九年三月渡以前ノ利子ハ第二條ノ利率ニ拘ハラズ左ノ區別ニ依リ仕拂フ

モノトス

一 第三期以前ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年九月ニ於テ額面百圓ノ付金壹圓拾八錢明治三十九年三月ニ於テ額面百圓ニ付金參圓貳拾五錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ

二 第四期以後ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十九年三月ニ於テ額面百圓ノ付金參圓參拾錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ

第十四條 國庫債券ノ拂込ヲ延滞シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金

百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ

拂込期日後三箇月ヲ過キ尙ホ拂込ヲ爲サルトキハ應募ノ申込ヲ無効トス既ニ拂込ミタル

金額ハ之ヲ沒收ス

第十五條 國庫債券ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十六條 前條ノ假債券ハ賣買讓與シ及質ト爲スコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス但シ應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假債券ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ旨ヲ證明スルトキハ同令第三條ニ依リ其ノ拂込ヲ假債券ニ記入スル代リニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ交付スルコトヲ得

第十七條 第十四條第二項ノ場合ニ於テ無效ト爲リタル假債券ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第十八條 假債券ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假債券ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假債券ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假債券ノ交付ヲ了リタルトキハ原假債券ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第十九條 (削除)

第二十條 (削除)

(國庫債券ノ様式ニ關スル告示及本債券ノ交付期日ニ關スル省令ハ凡テ之ヲ略ス)

第十二節 國債證券買入消却法

國債證券買入消却法(明治二十九年二月法律第五號)

第一條 政府ハ毎年度國債費豫算定額以内ニ於テ國債證券ヲ買入レ之レカ消却ヲ爲スコトヲ得

前項買入ノ價格ハ該證券面金額ニ超過スルコトヲ得ス

第二條 國債證券ノ買入消却ヲ爲シタルトキハ大藏大臣ハ其ノ證券ノ種類、番號、總額及其ノ買入價格ヲ告示スヘシ

第三條 消却ノ爲ニスル國債證券ノ買入ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十三節 國債整理基金特別會計法

國債整理基金特別會計法(明治三十九年三月法律第六號)

第一條 國債整理基金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

銀行會社法令大全 第五編 第一章 第十三節 國債整理基金特別會計法

國債整理基金ハ國債ノ償還發行ニ關スル費途ニ使用スルモノトス

第二條 國債整理基金ニ充ツヘキ資金ハ毎年度一般會計ヨリ之ヲ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ

前項毎年度一般會計ヨリ繰入ルヘキ資金中明治三十七八年戰役ニ關スル經費支辨ノ爲發行シタル國債及其ノ借換ノ爲ニ發行シタル國債ニ關スル分ハ年額壹億千萬圓ヲ下ルコトヲ得サルモノトス

第三條 國債借換ニ依ル募集金其ノ他ノ收入金ハ直接ニ之ヲ國債整理基金特別會計ニ編入スヘシ

第四條 國債整理基金ハ金銀地金及有價證券ヲ以テ之ヲ保有シ其ノ他有利且確實ナル方法ヲ以テ之ヲ運用スルコトヲ得

前項ノ運用ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第五條 政府ハ計算上利益アリト認ムル場合ニ於テ國債借換ノ爲低利ノ國債ヲ募集スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ利率、募集ノ方法、規約、据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
國債借換ノ爲發行スル國債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ整理公債條例ニ依ル

第六條 政府ハ計算上利益アリト認ムルトキハ額面以上ニテモ買入銷却ヲ爲スコトヲ得

第七條 國債整理基金ノ運用ヨリ生スル損益ハ本特別會計ノ所屬トシテ整理スルモノトス

第八條 國債整理基金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ翌年度ヘ繰越スヘシ

國債整理基金特別會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次繰越使用スルコトヲ得

第九條 政府ハ毎年國債整理基金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

附則

第十條 本法ハ明治三十九年度ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本法施行前一般會計ニ收入シタル借換國債ノ募集金ニシテ本法施行ノ日ニ於ケル現在額ハ之ヲ本特別會計ニ繰入ルヘシ

明治三十八年度一般會計ニ於テ前項借換國債ノ募集金ヲ以テスル國債償還ノ歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ本特別會計ニ繰越スヘシ

第十二條 償金特別會計法ハ明治三十八年度限り之ヲ廢止ス償金特別會計ニ屬スル現金、有價證券及他ノ會計トノ計算ハ國債整理基金特別會計ニ歸屬スルモノトス

第十四節 國債規則

國債規則(明治三十九年五月
大藏省令第二三號)

第一章 取扱店

第一條 國債事務取扱店ノ位置及名稱ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條 此ノ規則ニ於テ取扱店トアルハ登録國債ニ關スル取扱ニ付テハ所管取扱店トス但シ特別ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章 證券

第三條 國債證券ノ見本ハ之ヲ各取扱店ニ配置シ其ノ旨ヲ告示ス但シ時宜ニ由リ見本ヲ配置セシテ様式ノ要項ヲ告示スルコトアルヘシ

何人ト雖モ取扱店ニ就キテ前項ノ見本ヲ閱覽スルコトヲ得

第四條 國債證券ニハ記號及番號ヲ附ス

記名國債證券ニハ記名紙ヲ貼附シ其ノ證券及利札ニハ記名ノ二字ヲ記ス

第五條 國債證券ノ額面金額ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外五拾圓、百圓、貳百圓、五百圓、千圓、貳千圓、五千圓及壹萬圓ノ八種トス

第六條 大藏省ニ國債證券臺帳ヲ置ク

國債證券ヲ發行スルトキハ前項ノ臺帳ニ契印ス

第七條 國債ノ應募者ハ交付ヲ受クヘキ證券ニ付テ其ノ額面金額ノ種類ヲ選擇スルコトヲ得ス

第八條 國債證券カ汚染又ハ毀損シタルトキハ其ノ所有者ハ之カ引換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ該證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一 證券ノ名稱額面金額ノ種類及枚數

二 證券ノ記號及番號

三 證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期

四 記名無記名ノ區別

五 請求ノ年月日

六 請求者ノ住所

第九條 記名國債證券ニ付テ登録ノ變更若ハ登録所管取扱店ノ轉換ヲ請求シ又ハ無記名國債證券ヲ記名證券ニ變換ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ證券カ汚染又ハ毀損ニ係ルモノナルト

キハ併セテ其ノ證券ノ引換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ登録ニ關スル請求書ニ附記スルコトヲ要ス

第十條 汚染又ハ毀損シタル國債證券ト引換ノ爲交付スル代證券ノ附屬利札ハ現ニ存在スル原證券ノ附屬利札ニ從ヒ之ヲ附ス

第十一條 國債證券ノ所有者ハ額面金額ノ種類ニ從ヒ證券ノ分割又ハ併合ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ分割ハ最小限ヲ額面五拾圓トス

第十二條 舊公債證書ヲ除ク外元金償還期ノ確定シタル國債證券ニ付テハ分割又ハ併合ヲ請求スルコトヲ得ス元金償還ノ爲抽籤ヲ執行スル場合其ノ抽籤セラレヘキ證券ニ付テハ償還告示ノ日ヨリ當籤廣告ノ日マテ亦同シ

起債年ノ異ナルモノ又ハ舊公債證書ヲ除ク外記號ノ異ナル國債證券ニ付テハ併合ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 國債證券ノ分割又ハ併合ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ該證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 原證券ノ名稱、額面金額ノ種類及枚數
- 二 原證券ノ記號及番號

三 原證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期

四 原證券ノ記名無記名ノ區別

五 代證券ノ額面金額ノ種類及枚數

六 請求ノ年月日

七 請求者ノ住所

原證券ノ附屬利札中未タ利子仕拂期ノ開始セザルモノ一枚又ハ二枚以上欠缺セルトキハ請求ノ際其ノ欠缺利札ニ於ケル利子金額ニ相當スル現金ヲ取扱店ニ納付スヘシ

第十四條 前二條ノ規定ハ臺灣事業公債法第三條第四項ノ規定ニ依ル公債ノ變換ニ之ヲ準用ス

第十五條 國債證券ノ附屬利札盡キタルトキハ其ノ所有者ハ該證券ヲ取扱店ニ提出シ次期以降利札ノ繼足ヲ請求スヘシ但シ時宜ニ由リ更ニ次期以降ノ利札ヲ附シタル證券ヲ交付スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ豫メ之ヲ告示ス

第十六條 記名國債證券又ハ其ノ利札ノ滅失又ハ紛失ニ付テ届出ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ發見ノトキ亦之ニ準ス

- 一 證券ノ名稱及額面金額ノ種類

- 二 證券又ハ利札ノ枚數
- 三 證券又ハ利札ノ記號及番號
- 四 證券ノ滅失又ハ紛失ニ在リテハ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期ニ在リテハ其ノ利札面ニ記載スル利子仕拂期
- 五 證券ノ記名
- 六 滅失又ハ紛失ノ事由、場所及年月日
- 七 届出ノ年月日
- 八 届出人ノ住所

第十七條 記名國債證券又ハ其ノ利札ノ滅失又ハ紛失ニ因リ代證券又ハ代利札ノ交付ヲ請求セントスル者ハ前條第一號乃至第五號及第七號ノ事項請求ノ年月日竝ニ請求者ノ住所ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ
前項ノ場合ニ於テ代證券ノ額面金額ノ種類ヲ選擇セントスル者ハ其ノ種類及枚數ヲ請求書ニ記載スヘシ

第十八條 消滅時効ノ完成シタル國債證券又ハ利札竝ニ滅失又ハ紛失ニ因リ效力ヲ失ヒタル記名國債證券又ハ利札ヲ所持スル者ハ直ニ之ヲ最寄取扱店ニ返還スヘシ

第三章 登録

第十九條 國債登録簿ハ甲乙二種トシ甲種ハ證券ヲ發行セサルモノヲ登録シ乙種ハ證券ヲ發行シタルモノヲ登録ス

甲種國債登録簿ハ日本銀行本店ニ乙種國債登録簿ハ別ニ告示スル取扱店ニ之ヲ備フ

第二十條 甲種國債登録簿ニハ副本ヲ設ケ之ヲ大藏省ニ置ク

第二十一條 國債登録簿ノ様式ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十二條 甲種國債登録簿ノ登録金額ハ各種國債證券ニ於ケル最小額面金額ヲ以テ整除シ得ヘキモノニ限ル

乙種國債登録簿ノ登録金額ハ各種國債證券ニ於ケル額面金額ノ種類ニ從フ

第二十三條 甲種國債登録簿ハ國債ノ種別及其ノ起債年毎ニ口坐ヲ分チ其ノ登録國債ニハ記號及番號ヲ附ス

乙種國債登録簿ニ於ケル登録國債ノ記號及番號ハ國債證券ノ記號及番號ニ從フ

第二十四條 國債ノ登録ハ自然人ニ在リテハ其ノ氏名ヲ、法人ニ在リテハ其ノ名ヲ、法人ニ非サル組合其ノ他ノ團體ニ在リテハ其ノ管理者ノ氏名ヲ以テ之ヲ爲ス但シ法人ニ準スヘキ團體ニシテ從來其ノ名ヲ以テ登録スルノ慣習アルモノハ其ノ慣習ニ從フ

登録國債ニ對スル共有者カ多數ナルトキハ請求書ニ掲ケタル筆頭者ノ氏名及他ノ人員ヲ登録シ其ノ氏名ハ別ニ共有人名簿ニ記載ス

第二十五條 國債ノ應募者又ハ引受人登録ヲ請求セントスルトキハ募人決定又ハ引受ノ際左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 國債ノ種別及登録金額
- 二 登録スヘキ記名

三 請求ノ年月日

四 請求者ノ住所但シ請求者ト記名者ト異ナルトキハ記名者ノ住所トモ

前項ノ場合ニ於テ記名國債證券ノ交付ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ登録ノ請求書ニ附記スヘシ

第二十六條 無記名國債證券ノ所有者登録ヲ請求セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ該證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 證券ノ名稱、額面金額ノ種類及枚數
- 二 證券ノ記號及番號
- 三 證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期

四 登録金額

五 登録スヘキ記名

六 請求ノ年月日

七 請求者ノ住所但シ請求者ト記名者ト異ナルトキハ記名者ノ住所トモ
前項ノ場合ニ於テ無記名國債證券ヲ記名證券ニ變換セントスル者ハ其ノ旨ヲ登録ノ請求書ニ附記スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ請求者ノ提出シタル國債證券ノ附屬利札中未タ利子仕拂期ノ開始セサルモノ一枚又ハ二枚以上欠缺セルトキハ請求ノ際其ノ欠缺利札ニ於ケル利子金額ニ相當スル現金ヲ取扱店ニ納付スヘシ

第二十七條 甲種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ付テ登録ノ變更ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 國債ノ種別及變更スヘキ登録金額
- 二 登録ノ記號及番號
- 三 原記名及新記名
- 四 登録變更ノ事由

五 請求ノ年月日

三百九十二

六 請求者ノ住所但シ請求者ト新記名者ト異ナルトキハ新記名者ノ住所トモ前項ノ場合ニ於テ請求者ハ登録變更ノ事由ヲ證スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スルコトヲ要ス但シ權利ノ移轉ニ因ル登録ノ變更ヲ請求スル場合當事者雙方カ其ノ請求書ニ連署捺印ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條

乙種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ付テ登録ノ變更ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 國債ノ種別及變更スヘキ登録金額
- 二 證券ノ額面金額ノ種類及枚數
- 三 證券ノ記號及番號
- 四 證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期
- 五 原記名及新記名
- 六 登録變更ノ事由
- 七 請求ノ年月日
- 八 請求者ノ住所但シ請求者ト新記名者ト異ナルトキハ新記名者ノ住所トモ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條

乙種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ付テ甲種國債登録簿ニ移記ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 國債ノ種別及移記スヘキ登録金額
- 二 證券ノ額面金額ノ種類及枚數
- 三 證券ノ記號及番號
- 四 證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期
- 五 登録ノ記名
- 六 請求ノ年月日
- 七 請求者ノ住所

第三十條 甲種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ付テ乙種國債登録簿ニ移記ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 國債ノ種別及移記スヘキ登録金額
- 二 登録ノ記號及番號

- 三 登録ノ記名
- 四 登録簿移記ニ因リ交付ヲ受クヘキ記名證券ノ額面金額ノ種類枚數及附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期
- 五 請求ノ年月日
- 六 請求者ノ住所
- 第三十一條 登録國債ニ付テ登録變更ノ請求ヲ爲ス者ハ併セテ登録簿ノ移記ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ移記スヘキ登録金額ヲ登録變更ノ請求書ニ附記シ尙乙種國債登録簿ニ移記ノ請求ヲ爲ス場合ニ在リテハ前條第四號ノ事項ヲモ附記スルコトヲ要ス
- 第三十二條 第二十七條第二十八條及前條ノ規定ハ臺灣事業公債法第三條第四項ノ規定ニ依ル公債ノ變換ニ之ヲ準用ス
- 第三十三條 乙種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ付テ登録所管取扱店ノ轉換ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ現所管取扱店ニ提出スヘシ
 - 一 國債ノ種別及轉換スヘキ登録金額
 - 二 證券ノ額面金額ノ種類及枚數

- 三 證券ノ記號及番號
- 四 證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期
- 五 登録ノ記名
- 六 轉換先取扱店名
- 七 請求ノ年月日
- 八 請求者ノ住所
- 第三十四條 國債ノ登録變更又ハ登録簿移記ノ請求ヲ爲ス者ハ併セテ登録所管取扱店ノ轉換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第六號ノ事項ヲ登録變更又ハ登録簿移記ノ請求書ニ附記スルコトヲ要ス
- 第三十五條 國債ノ登録變更、登録簿移記及登録所管取扱店轉換ノ請求ハ第三十一條及前條ノ規定ニ準シ必要ノ事項ヲ附記シ併セテ之ヲ爲スコトヲ得
- 登録變更又ハ登録所管取扱店轉換ノ請求ト記名國債證券ノ分割若ハ併合又ハ滅失若ハ紛失ニ因ル代證券交付ノ請求トニ付テ亦前項ノ例ニ準ス
- 第三十六條 甲種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ付テ登録ノ除却ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 國債ノ種別及除却スヘキ登録金額
 - 二 登録ノ記號及番號
 - 三 登録ノ記名
 - 四 登録除却ニ因リ交付ヲ受クヘキ無記名證券ノ額面金額ノ種類、枚數及附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期
 - 五 請求ノ年月日
 - 六 請求者ノ住所
- 第三十七條 乙種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ付テ登録ノ除却ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ
- 一 國債ノ種別及除却スヘキ登録金額
 - 二 證券ノ額面金額ノ種類及枚數
 - 三 證券ノ記號及番號
 - 四 證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期
 - 五 登録ノ記名
 - 六 請求ノ年月日

七 請求者ノ住所

前項ノ場合ニ於テ登録除却ニ因リ交付ヲ受クヘキ無記名國債證券ノ額面金額ノ種類ヲ選擇セントスル者ハ其ノ種類及枚數ヲ請求書ニ記載スヘシ

第三十八條 記名國債證券ノ滅失又ハ紛失ニ因リ代證券交付ノ請求ヲ爲ス者ハ併セテ登録ノ除却ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ代證券交付ノ請求書ニ附記スルコトヲ要ス

第三十九條 第十一條ノ規定ニ依リ無記名國債證券ト記名國債證券トノ併合ヲ請求スル者ハ同時ニ新規登録又ハ登録除却ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ分割又ハ併合ノ請求書ニ附記スヘシ

第四十條 登録國債ニ付テ質權設定又ハ轉質ノ登録ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及當事者雙方ノ連署捺印ヲ爲シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 國債ノ種別及質權ノ目的ト爲シタル登録金額
- 二 登録ノ記號及番號又ハ證券ノ額面金額ノ種類、記號及番號
- 三 登録ノ記名
- 四 債權ノ金額及其ノ辨濟期

質權ニ付利息ニ關スル定メアルトキ、違約金又ハ賠償額ノ定メアルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ及民法第三百四十六條但書ノ定メアルトキハ其ノ事項

六 質權設定者カ債務者ニ非サルトキハ債務者ノ住所氏名

七 請求ノ年月日

八 請求者ノ住所

第二十二條第一項ノ規定ハ質權ノ目的ト爲ス國債ノ登錄金額ニ之ヲ準用ス

第四十一條 前條ノ規定ハ登錄國債ニ關スル質權ノ移轉ニ因リ登錄ヲ變更シ及質權ノ消滅ニ

因リ登錄ヲ抹消スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 取扱店ニ於テ甲種國債登錄簿ニ新規、變更移記及質權ノ登錄ヲ爲シタルトキハ

其ノ國債ノ種別、登錄金額、記號、番號、記名及登錄濟年月日其ノ他ノ要件ヲ記載シタル登錄

濟證書ヲ請求者ニ交付ス乙種國債登錄簿ニ質權ニ關スル登錄ヲ爲シタルトキ亦同シ

第四十三條 登錄國債ノ元金償還又ハ買入銷却アリタルトキハ取扱店ニ於テ受取人ノ領收證

書又ハ回收ノ記名國債證券ニ依リ之ニ對スル登錄ヲ除却ス

第四十四條 甲種國債登錄簿ニ登錄セラレタル記名者其ノ他ノ利害關係人ハ何時ト雖モ利害

ノ關係アル部分ニ限リ甲種國債登錄簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ取扱店ニ請求

スルコトヲ得

前項ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ且ツ他人ノ記名ニ係ル部分ノ閱覽又ハ謄本若ハ抄本ノ交

付ニ付テハ其ノ利害關係ヲ證スルニ足ルヘキ書類ヲ提出スルコトヲ要ス但シ當該記名者カ

請求書ニ連署捺印ヲ爲シタルトキハ證據書類ノ提出ヲ要セス

第四十五條 登錄國債ノ記名者及其ノ權利ヲ行使スル者ハ印鑑ヲ取扱店ニ提出シ置クコトヲ

要ス改印ノトキ亦同シ

取扱店ハ其ノ須要ニ依リ關係人ノ印鑑ヲ徵スルコトヲ得

第四十六條 登錄國債ノ記名者住所ヲ轉シタルトキハ直ニ之ヲ取扱店ニ届出ツヘシ

第四章 償還及仕拂

第四十七條 國債元金ノ一部償還ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外抽籤ノ方法ニ依ル

抽籤ノ方法ハ日本銀行ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第四十八條 國債ノ元金ヲ償還スル爲抽籤ヲ執行スルトキハ其ノ償還額、償還期日及抽籤執

行日ヲ定メ之ヲ告示ス

第四十九條 抽籤ハ日本銀行本店ニ於テ之ヲ執行ス

第五十條 當籤シタル國債證券ノ額面金額ノ種類、記號及番號竝ニ甲種國債登錄簿ノ登錄金

額、記號及番號ハ日本銀行之ヲ廣告ス

四百

第五十一條 國債元金ノ全部償還ヲ爲ストキハ其ノ償還額及償還期日ヲ定メ豫メ之ヲ告示ス
第五十二條 國債利子ノ仕拂期ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外毎年二回トシ各其ノ日以前六箇月間ニ屬スルモノヲ仕拂フ但シ元金償還ノ場合ニ於ケル當期分利子ハ元金ト同時ニ之ヲ仕拂フ前項ノ利子仕拂期日ハ起債ノトキ之ヲ定ム

第五十三條 起債當初ニ於ケル利子ノ計算方法ハ起債ノトキ之ヲ定メ國債元金償還ノ場合ニ於ケル利子ハ元金償還ノ期日マテ之ヲ附ス但シ特別ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
第五十四條 無記名國債證券ニ對スル元金及利子ハ證券又ハ利札ノ持參人ニ其ノ證券又ハ利札ト引換ニ之ヲ仕拂フ

第五十五條 登録國債ノ元金及利子ハ甲種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ在リテハ領收證書ト乙種國債登録簿ニ登録シタル國債ニ在リテハ證券又ハ利札ト引換ニ記名者又ハ其ノ權利ヲ行使スル者ニ之ヲ仕拂フ

第五十六條 證券ヲ發行シタル國債ノ元金ト同時ニ仕拂フヘキ利子ハ其ノ證券ニ對シテ之ヲ仕拂フ

第五十七條 滅失又ハ紛失シタル國債證券又ハ利札ニ對スル元金又ハ利子ハ領收證書ト引換

ニ之ヲ仕拂フ

第五十八條 國債證券又ハ利札ノ所有者ハ元金償還期又ハ利子仕拂期ノ開始前該證券又ハ利札ヲ取扱店ニ預託シ置クコトヲ得

第五十九條 甲種國債登録簿ニ登録セラレタル記名者ハ所管外ノ取扱店ニ於テ其ノ元金又ハ利子ノ仕拂ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ仕拂請求ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ印鑑ヲ添ヘ豫メ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 國債ノ種別及仕拂ヲ受クヘキ元金又ハ利子ニ對スル登録金額
- 二 登録ノ記號及番號
- 三 登録ノ記名
- 四 仕拂ヲ受クヘキ元金額又ハ利子金額
- 五 元金償還期又ハ利子仕拂期
- 六 仕拂ノ取扱店名
- 七 請求ノ年月日
- 八 請求者ノ住所

第六十條 甲種國債登録簿ニ登録セラレタル記名者ハ利子ノ送付ヲ請求スルコトヲ得但シ送

金ノ費用及危險ハ請求者ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ領收證書ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 國債ノ種別及仕拂ヲ受クヘキ利子ニ對スル登録金額
- 二 登録ノ記號及番號
- 三 登録ノ記名
- 四 仕拂ヲ受クヘキ利子金額及當該仕拂期
- 五 送付ヲ受クヘキ場所及送金ノ方法
- 六 請求ノ年月日
- 七 請求者ノ住所

第六十一條 滅失又ハ紛失シタル記名國債證券又ハ其ノ利札ニ對スル元金ノ償還又ハ利子ノ仕拂ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 證券ノ名稱及額面金額ノ種類
- 二 證券又ハ利札ノ枚數
- 三 證券又ハ利札ノ記號及番號

- 四 證券ノ記名
- 五 仕拂ヲ受クヘキ元金額又ハ利子金額
- 六 元金償還期又ハ利子仕拂期
- 七 滅失又ハ紛失届出ノ年月日
- 八 請求ノ年月日
- 九 請求者ノ住所

第六十二條 滅失又ハ紛失シタル無記名國債證券又ハ其ノ利札ニ對スル元金ノ償還又ハ利子ノ仕拂ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ印鑑ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

- 一 證券ノ名稱及額面金額ノ種類
- 二 證券又ハ利札ノ枚數
- 三 證券又ハ利札ノ記號及番號
- 四 仕拂ヲ受クヘキ元金額又ハ利子金額
- 五 元金償還期又ハ利子仕拂期
- 六 滅失又ハ紛失ノ事由場所及年月日

- 七 提供スヘキ擔保ノ種類及數量又ハ保證人ノ住所氏名
- 八 請求ノ年月日
- 九 請求者ノ住所

第六十三條 前條ノ場合ニ於テ取扱店ノ承認ヲ得タル者ハ滅失又ハ紛失シタル證券又ハ利札ノ持參人カ償還又ハ仕拂ヲ受ケタル場合ニハ其ノ金額及其ノ仕拂ノ日以後ノ利子ヲ辨償スヘキ旨ノ契約證書ヲ作り之ヲ取扱店ニ提出シ同時ニ之ニ對スル擔保ヲ提供スヘシ但シ保證人ヲ立テ擔保ノ提供ニ代フル場合ニ於テハ契約證書ニ保證人ノ連署捺印ヲ爲シ及其ノ印鑑ヲ提出スルコトヲ要ス

第五章 擔保及保證

第六十四條 無記名國債證券又ハ其ノ利札ヲ滅失又ハ紛失シタル者カ元金ノ償還又ハ利子ノ仕拂ヲ受クル爲提供スヘキ擔保ハ現金、登錄國債又ハ國債證券其ノ他取扱店ノ確實ト認メタル有價證券トス

第六十五條 前條ノ擔保額ハ償還ヲ受クヘキ元金又ハ仕拂ヲ受クヘキ利子ノ金額ニ其ノ仕拂フヘキ日ヨリ元金又ハ利子ノ消滅時效完成ノ日ニ至ルマテノ日數ニ應スル一箇年百分ノ五ノ利子金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ最下限トス

第六十六條 擔保物ノ價格ハ取扱店ノ認定ニ依ル

擔保物ノ價格減少シタルトキハ取扱店ノ指定シタル期日內ニ増擔保ヲ提供スルコトヲ要ス但シ取扱店ノ承認ヲ經テ代保證人ヲ立ツルコトヲ妨ケス

第六十七條 現金又ハ有價證券ヲ以テ擔保ト爲ストキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證書ヲ取扱店ニ提出スヘシ

第六十八條 甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ヲ以テ擔保ト爲ストキハ質權設定ノ登錄ヲ爲スニ必要ナル事項ヲ記載シタル擔保提供書ヲ取扱店ニ提出スヘシ

第六十九條 擔保ヲ提供シタル者カ其ノ擔保物ヲ變更セントスルトキハ新ニ提供スヘキ擔保ノ種類及數量ヲ記載シ年月日、住所、氏名ヲ署シ及捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ取扱店ニ請求シ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ得タル者ハ直ニ前二條ノ規定ニ依リ新擔保物ノ提供ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 擔保ヲ提供シタル者ハ擔保ノ原因カ一部消滅シタル場合其ノ限度ニ應シ擔保ノ一部解除ヲ取扱店ニ請求スルコトヲ得

第七十一條 擔保物ノ公賣ハ取扱店ニ於テ左ノ事項ヲ廣告シ最初廣告ノ日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後入札ノ方法ヲ以テ之ヲ執行ス

- 一 公賣財産ノ名稱、數量及性質其ノ他重要ナル事項
- 二 入札及開札ノ場所及日時
- 三 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額
- 四 代金納付ノ日限

第七十二條 公賣ノ場合取扱店ニ於テ必要ト認ムルトキハ保證金ヲ徵スルコトヲ得
落札者義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ之ヲ政府ノ所得トス

第七十三條 落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人
ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同シキトキハ抽籤ヲ以テ落札者
ヲ定ム

第七十四條 擔保品ヲ公賣スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更
ニ公賣ヲ爲ス

落札者代金納付ノ期限マテニ代金ヲ完納セサルトキハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ公賣ヲ爲ス
第七十五條 公賣シタル財産ニ付テ擔保提供者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムルノ必要ア
ルトキハ取扱店ニ於テ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシム

前項ノ期限マテニ擔保提供者カ其ノ手續ヲ爲ササルトキハ取扱店ニ於テ擔保提供者ニ代リ

之ヲ爲スコトヲ得

第七十六條 公賣ノ決行前ニ擔保提供者カ辨償金ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ止ム但シ公賣ノ
費用ハ擔保提供者ノ負擔トス

第七十七條 公賣ノ費用ハ公賣代金ヲ以テ之ヲ支辨ス

公賣代金ヲ以テ辨償金及公賣費用ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ取扱店ニ於テ納付ノ期日ヲ
定メ之ヲ擔保提供者ニ通知ス前條但書ノ公賣費用ニ付テ亦同シ

第七十八條 擔保ノ提供ニ代フルコトヲ得ヘキ保證人ノ債務ハ主タル債務者ト連帶トス

第七十九條 保證人カ死亡シタルトキハ債務者ニ於テ速ニ代保證人ヲ立テ之ヲ取扱店ニ請求
シ其ノ承認ヲ受クヘシ保證人ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

債務者ハ保證人ノ資産ノ減損ニ因リ取扱店ヨリ更ニ擔保ヲ提供スヘキコトヲ求メラレタル
トキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ取扱店ノ承認ヲ經テ代保證人ヲ立ツルコトヲ妨ケス

第六章 雜則

第八十條 左ノ各號ノ請求ヲ爲ス者ハ下ニ掲クル割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 汚染又ハ毀損シタル國債證券ノ引換
一枚毎ニ金貳拾錢
- 二 國債證券ノ分割又ハ併合
〔原證券〕一枚毎ニ金參錢
〔代證券〕一枚毎ニ金貳拾錢

- 三 滅失又ハ紛失シタル記名國債證券ノ代リ交付 原證券一枚毎ニ付金貳拾錢
但シ代證券ノ枚數カ原證券ノ枚數ヨリモ多キトキハ其ノ超過枚數一枚毎ニ金拾六錢ヲ加フ
- 四 滅失又ハ紛失シタル記名國債證券利札ノ代リ交付 一枚毎ニ金參錢
- 五 國債ノ新規登錄登錄變更及質權ニ關スル登錄
〔甲種國債登錄簿一件毎ニ金五錢
乙種國債登錄簿記名證券一枚毎ニ金五錢〕
- 六 國債登錄簿ノ移記
〔甲種國債登錄簿へ移記一件毎ニ金五錢
乙種國債登錄簿へ移記證券一枚毎ニ金貳拾錢〕
- 七 國債ノ登錄所管取扱店ノ轉換 證券一枚毎ニ金六錢
- 八 國債ノ登錄除却
〔甲種國債登錄簿一件毎ニ金五錢
乙種國債登錄簿記名證券一枚毎ニ金五錢〕
但シ無記名國債證券ノ枚數カ記名證券ノ枚數ヨリモ多キトキハ其ノ超過枚數一枚毎ニ金拾六錢ヲ加フ
- 九 國債登錄簿ノ閱覽 一回毎ニ金拾錢
- 十 國債登錄簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付 用紙一枚毎ニ金拾錢一枚ニ滿タサルモノ亦同シ
前各條ノ規定ニ依リ前項各號中ノ事項ヲ併セ請求スル場合ニ於テハ各事項ノ手数料金額ヲ

比較シ其ノ多キ方ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第八十一條 國債ノ登錄濟證書又ハ登錄簿ノ謄本若ハ抄本ノ郵送ヲ受ケントスル者ハ相當ノ郵送料ヲ取扱店ニ前納スヘシ

第八十二條 舊公債ノ賦金ニハ前各條中利子ノ規定ヲ、賦札ニハ前各條中利札ノ規定ヲ適用ス

第四條第二項及國債ノ登錄除却ニ關スル規定ハ舊公債ニハ之ヲ適用セス

附則

第八十三條 本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス但シ明治三十八年以前發行大日本帝國政府五分利公債證書ノ分割又ハ併合ニ付テハ明治三十九年九月一日ヨリ本令ヲ適用ス

第八十四條 左ニ掲クル命令ハ之ヲ廢止ス

- 一 明治九年(七月)大藏省布達甲第十五號
- 二 同十九年(十月)同省令第三十號整理公債取扱順序
- 三 同二十年(三月)同省令第三號
- 四 同二十一年(十一月)同省令第十四號
- 五 同二十三年(六月)同省令第十六號

- 六 同二十六年(三月)同省令第五號鐵道公債取扱順序
 - 七 同二十七年(八月)同省令第十五號軍事公債取扱順序
 - 八 同年(十一月)同省令第二十號
 - 九 同二十八年(十月)同省令第四號
 - 十 同二十九年(三月)同省令第四號
 - 十一 同年(同月)同省令第五號
 - 十二 同三十七年(二月)同省令第四號國庫債券發行規程第十六條
 - 十三 同年(五月)同省令第十七號第二回國庫債券發行規程第十六條
 - 十四 同年(十月)同省令第四十號
 - 十五 同年(同月)同省令第四十一號第三回國庫債券發行規程第十九條及第二十條
 - 十六 同三十八年(四月)同省令第二十六號第五回國庫債券發行規程第十九條及第二十條
 - 十七 同年(十月)同省令第四十八號
 - 十八 同三十九年(一月)同省令第二號國債證券分合規則
 - 十九 同年(二月)同省令第八號臨時事件公債規程第二十九條
- 本令施行前ニ整理公債條例ノ規定ニ依リ又ハ紛失ノ届出ヲ爲シタル無記名國債證券及其ノ

利札ノ處分ニ付ラハ仍整理公債證券取扱順序ニ依ル
 第八十五條 乙種國債登錄簿ハ當分ノ内從前取扱店ニ備ヘ置キタル記名簿ヲ以テ之ニ代用ス
 ルコトヲ得

第十五節 國債證券ニ關スル雜則

第一 國債ノ種別及國債證券ノ名稱ニ關スル件

國債ノ種別及國債證券ノ名稱(明治三十九年六月
 大藏省告示七六號)

國債規則ニ於ケル國債ノ種別及國債證券ノ名稱ハ左ノ如シ

國債ノ種別 證券ノ名稱 備 考

舊 公 債	舊 公 債 證 書	明治八年第九十五號布告新舊公債證書發行條例ニ依リ發行ノ分
海 軍 公 債	海 軍 公 債 證 書	明治十九年勅令第四十七號海軍公債證書條例ニ依リ發行ノ分
整 理 公 債	整 理 公 債 證 書	明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依リ發行ノ分
軍 事 公 債	軍 事 公 債 證 書	明治二十七年勅令第四百四十四號軍事公債條例同 年法律第二十五號及同二十八年法律第八號ニ依 リ發行ノ分

五分利公債 大日本帝國政府五分利公債證書

臺灣事業公債 臺灣事業公債證書

臨時事件公債 大日本帝國政府五分利公債證書

第一回發行 國庫債券

第二回發行 同上

第三回發行 同上

煙草專賣法國庫債券

國庫債券

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法、同二十九年法律第五十九號事業公債條例、同年法律第九十三號北海道鐵道敷設法、同三十二年法律第七十五號臺灣事業公債法第三條第二項（明治三十六年法律第八號ヲ以テ追加）及同年法律第八十四號家祿賞典祿處分法施行法ニ依リ發行ノ分

明治三十二年法律第七十五號臺灣事業公債法ニ依リ發行ノ分
明治三十九年法律第一號ニ依リ發行ノ分ニシテ證券及利札ニハ「特別」ノ二字刷入シアリ
明治三十六年勅令第二百九十一號ニ依リ發行ノ分ニシテ證券ノ記號ハハ號ナリ
明治三十七年法律第一號ニ依リ發行ノ分ニシテ同上證券ノ記號ハハ號ナリ

明治三十七年法律第十四號煙草專賣法ニ依リ發行ノ分ニシテ證券ノ記號ハハ號及ハ號ナリ

法律第二一號（明治三十八年二月） 第二一 國債證券價格計算ニ關スル件

軍備補充ノ爲及臨時事件費支辨ノ爲發行スル國債證券ニ付テハ其最低發行價格ヲ以テ債權ノ價格トシテ計算スルコトヲ得

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三 擔保トシテ政府ニ納ムヘキ國債證券ノ價格算定ニ關スル件

勅令第二二號（明治三十八年一月）

軍備補充ノ爲及臨時事件費支辨ノ爲發行シタル國債證券ヲ法律命令ノ規定ニ依リ政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充テムトスルトキハ其ノ最低發行價格ニ依リ保證價格ヲ算定スヘシ但シ假證券ノ價格ハ其ノ拂込濟ノ金額ニ依ル

第四 歳入金ノ代用證券取扱ニ關スル件

勅令第三十四號（明治三十八年二月）

租稅其ノ他ノ歳入金ノ代用トシテ證券ノ納付ヲ受ケタル場合ニ於テハ收入官吏及金庫ヲシテ

現金ニ準シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第五 元金及利子支拂期ノ開始セル無記名國債證券
及利札ヲ歳入金ニ代納スルコトヲ得ルノ件

大藏省令第七號(明治三十八年)

第一條 元金仕拂期ノ開始セル無記名國債證券及利子仕拂期ノ開始セル無記名國債證券利札ハ租稅其ノ他ノ歳入金ノ全部又ハ一部ニ代用納付スルコトヲ得

前項ノ租稅其ノ他ノ歳入金ハ其ノ種目ヲ定メ別ニ之ヲ告示ス

第二條 前條若ハ他ノ特別ノ規定ニ依リ代用納付ヲ許サレタル證券ヲ以テ租稅其ノ他ノ歳入金ヲ納付セントスル者ハ國債證券及利札ニ在リテハ其ノ代用價格ヲ定メ別記書式ノ納付書ヲ作り其ノ他ノ證券ニ在リテハ證券ノ種類、番號、金額、仕拂期日及仕拂場所ヲ記載シタル納付書(書式適宜)ヲ作り其ノ證券ト共ニ之ヲ納稅告知書若ハ納入告知書ニ添へ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第三條 國債證券及利札ノ代用價格ハ左ニ掲クル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

- 一 元金償還當期分ノ利札ハ其ノ償還期マテノ月割利子金額

- 二 所得稅法ノ規定ニ依リ利子ノ所得稅ヲ徵收スヘキ利札ハ其ノ額面金額(前號ニ該當スルモノハ其ノ月割金額)中相當所得稅額ヲ控除シタル金額

- 三 前各號ノ外ハ其ノ額面金額

所得稅法施行規則第三十五條ノ規定ハ國債證券ノ利札ヲ租稅其ノ他ノ歳入金ニ代用納付スル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 金庫收入官吏又ハ市町村(市町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長以下同シ)ニ於テ國債證券及利札ノ代用納付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ證券及利札ニ代用納付ノ印ヲ押捺スヘシ

第五條 收入官吏又ハ市町村ニ於テ代用證券ノ納付ヲ受ケタルトキハ毎日之ヲ取纏メ納付仕譯書(記載事項及書式ハ納付書ニ準ス)ヲ作り拂込書ヲ添へテ翌日マテニ金庫ニ拂込ムヘシ此場合ニ於テハ現金出納簿ニ其ノ受拂額ヲ登記スルモノトス

國債證券及利札ヲ除ク外代用證券ノ仕拂場所カ金庫所在地外ナルトキ若ハ仕拂期日ノ切迫シタルモノニ在リテハ收入官吏又ハ市町村ニ於テ之ヲ現金ニ引換ヘタル上前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 金庫ニ於テ收入官吏市町村又ハ納人ヨリ代用證券ヲ領收シタルトキハ現金ト同一ニ

整理シ直ニ仕拂場所ニ就キ仕拂ヲ受クルノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 代用納付ノ押印アル國債證券及利札ニ對スル元利金ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ金庫ヨリ請求アリタル場合ニ限り仕拂ヲ爲スモノトス但シ金庫、收入官吏又ハ市町村ニ於テ還付濟ノ證明ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條 代用證券ノ仕拂ヲ拒絕セラレタル場合ニ於テハ金庫ハ其ノ證券ヲ直ニ收入官吏市町村又ハ納人ニ還付スヘシ

收入官吏又ハ市町村ニ於テ前項ノ還付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ納人ニ通告スルト同時ニ更ニ相當ノ期日ヲ定メテ現金納付ヲ命シ之ト引換ニ該證券ヲ還付スヘシ第五條第二項ノ場合ニ於テ收入官吏又ハ市町村カ代用證券ノ仕拂ヲ拒絕セラレタル場合及金庫ヨリ直接ニ納人ニ還付スル場合ニ在リテモ亦同シ

第九條 前條ノ場合ニ於テ納人カ指定ノ期日內ニ現金ヲ納付セサルトキハ金庫又ハ收入官吏ハ其ノ收入濟額ヲ取消シ直ニ之ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第十條 代用國債證券及利札ノ還付ヲ受ケタル納人ハ其ノ事由ヲ具シテ還付濟ノ證明ヲ請求スルコトヲ得但シ還付ヲ受ケタル日ヨリ一箇年ヲ經過シタル後ハ此ノ限ニ在ラス
金庫、收入官吏又ハ市町村ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケ正當ノ事由アルモノト認メタルトキハ

其ノ證券及利札ノ名稱、額面種類、枚數、記號、番號及還付濟年月日ヲ記載シタル證明書ヲ作リ之ヲ交付スヘシ但シ納付書ニ記載シタル證券及利札ノ全部ヲ還付シタルトキハ該納付書ノ餘白ニ還付濟年月日ヲ登記シテ之ヲ證明書ニ代フルコトヲ得
第十一條 國債證券及利札ノ代用納付ニ付テハ其ノ納付ノ時ヲ以テ元利金仕拂ノ請求ヲ爲シタルモノト看做ス

(別記)

書式(用紙適宜)

納付書

一何公債證書(國庫債券又ハ何々)

何枚

但何年何月渡以降利札附屬

内

何圓券

何號

何番又ハ

至何番

何

枚

此代用價格金何程

銀行會社法令大全 第五編 第一章 第十五節 國債證券ニ關スル雜則

一何公債證書 (國庫債券又ハ何々) 利札

何 枚

但何年何月渡分

(内譯前ニ同シ但シ「何圓券」ノ下ニ「利札」ノ二字ヲ加フ)

此代用價格金何程

右ノ通ニ候也

住 所

年 月 日

氏 名 印

第六 國債證券及利札ヲ代納シ得ル歳入金ノ種目指定

大藏省令告示第四十四號 (明治三十八年 月)

明治三十八年(二月)大藏省令第七號第一條ニ依リ國債證券及利札ヲ以テ代用納付シ得ヘキ租稅其ノ他ノ歳入金ノ種目左ノ通之ヲ定ム

地 租 稅
所 得 稅

營 業 稅
酒 稅
醬 油 稅
賣 藥 營 業 稅
鑛 業 稅
取 引 所 稅
相 續 稅

(沖繩縣酒造免許稅ヲ除ク)

大藏省所管諸收入

森林收入ノ内 地所貸下料、辨償金、違約金
官有物、貸下料 (物品使用料ヲ除ク)
辨償及違約金
返 納 金 (歳入經常部及臨時部ニ屬スル分トモ)

第二章 大藏省證券

第一節 大藏省證券條例

銀行會社法令大全 第五編 第二章 第一節 大藏省證券條例

大藏證券券條例(明治十七年九月布告第二四號 同三十五年法律第十一號改正)

- 第一條 大藏省證券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス
- 第二條 大藏省證券ハ無記名利附定期拂ニシテ其發行シタル年度ノ歳入ヲ以テ仕拂ヲ爲スモノトス
- 第三條 大藏省證券ハ割引ヲ以テ發行スルコトヲ得
- 第四條 大藏省證券ハ百圓以上トシ其仕拂期限ハ十二箇月以内トス
證券ノ形式、種類、利子歩合及割引歩合ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第五條 大藏省證券ハ何人ニテモ授受賣買スルヲ得
- 第六條 大藏省證券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱ハシムヘシ
- 第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但其仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス
- 第八條 大藏省證券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六箇月間ハ之ヲ仕拂フヘシ滿六箇月ヲ過ルトキハ一切仕拂ヲ爲ササルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ附セサルモノトス
- 第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ證券ノ引換

- ヲ請フヘシ但其券面金額記號番號及ヒ主要ノ印部ヲ検査シ其真正タルヲ證認シ得ヘキ者ニアラサレハ引換サルヘシ
- 第十條 大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セシトキハ其事由並ニ券面ノ金額、仕拂期日、記號番號及ヒ所有セシトキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ
大藏卿ハ其證券ノ授受賣買引換及ヒ仕拂ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ
- 第十一條 亡失セシ證券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スル保證人二人以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ
- 第十二條 大藏省證券ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタルモノハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

第二節 證券發行ノ事務取扱方

大藏省令第二十六號(明治十九年八月)

明治十七年(九月)第二十四號布告大藏省證券條例ニ據リ證券ヲ發行スルトキハ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

第三節 國債規則中準用ノ件

大藏省令第二十四號(明治三十九年五月)

國債規則中國債證券ノ汚染又ハ毀損ノ引換及分割又ハ合併ニ關スル規定ハ大藏省證券ニ之ヲ準用ス但シ仕拂期日ノ異ナル大藏省證券ニ付テハ併合ヲ請求スルコトヲ得ス

大藏省證券ニ關シ左ノ各號ノ請求ヲ爲ス者ハ下ニ掲クル割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 汚染又ハ毀損シタル大藏省證券ノ引換 一枚毎ニ金拾錢
- 二 大藏省證券ノ分割又ハ併合 〔原證券一枚毎ニ金參錢
代證券一枚毎ニ金拾錢〕

本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス

第三章 貯蓄債券

第一節 貯蓄債券法

貯蓄債券法(明治三十七年三月法律第十八號)

第一條 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ貯蓄債券ヲ發行セシムルコトヲ得

第二條 貯蓄債券ハ無記名札附ニシテ券面金額ヲ五圓トス

第三條 貯蓄債券ハ發行ノ翌年ヨリ二十箇年以内ニ毎年一回以上抽籤ヲ以テ之レヲ償還スヘシ

貯蓄債券ヲ償還スル場合ニハ割増金ヲ附與スルコトヲ得但シ割増籤一箇ノ金額ハ券面金額ノ百倍以内トス

第四條 貯蓄債券ニ附スヘキ利子ノ割合ハ一箇年百分ノ四以内トシ毎年一回之ヲ仕拂フモノトス

第五條 貯蓄債券ニハ商法第九十九條乃至第二百五條ヲ適用セス

第六條 貯蓄債券及其ノ引換證ニハ印紙稅ヲ免除ス

第七條 日本勸業銀行ハ貯蓄債券ノ募集金ヲ大藏省預金部ニ預入スヘシ

第八條 貯蓄債券ニハ日本勸業銀行法第四十條及第四十一條ヲ準用ス

第九條 貯蓄債券ノ發行額ハ一箇年參千萬圓ヲ以テ限トス

附則

第十條 本法ハ明治三十七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本法ニ依ル債券ノ發行ハ非常特別稅法施行中ニ限ルモノトス

銀行會社法令大全 第五編 第三章 第一節 貯蓄債券法

第二節 貯蓄債券購買媒介郵便規則

貯蓄債券購買媒介郵便規則(明治三十七年十一月逓信省令第六十九號) 同三十八年同省令第三十一號ヲ以テ改正)

第一條 郵便局所ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ明治三十七年法律第十八號貯蓄債券法ニ基キ發行スル貯蓄債券購買ノ媒介ヲ爲スヘシ但シ在外郵便局所及交通不便ノ島嶼ニ在ル郵便局所ニ在リテハ之カ取扱ヲ爲サス

第二條 郵便局所ニ於テ貯蓄債券購買ノ媒介ヲ爲ス期間ハ日本勸業銀行ニ於テ之カ發賣ヲ爲ス期間ニ同シ但シ發賣期間内ト雖モ必要ト認メタルトキハ購買ノ媒介期間ヲ限定スルコトアルヘシ

日本勸業銀行ハ債券發賣ノ際豫メ其ノ相當數量ヲ各一等郵便局ニ回付シ購買者ノ請求ニ應シ其ノ代金ノ取立ヲ委託スルコトヲ得

第三條 貯蓄債券購買ノ媒介ヲ請求セントスル者ハ債券代金ニ對スル通常爲替振出請求書ヲ作製シ且其特殊取扱指定欄ニ貯蓄債券購買ノ旨ヲ附記シ之ニ現金ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ但シ爲替料金ハ購買者ニ於テ之カ納付ヲ要セス

前項ノ場合ニ於テハ郵便局所ハ通常爲替證書ヲ作製シ所轄一等郵便局ヲ經テ之ヲ郵便爲替

貯金管理所ニ送付ス

第四條 一等郵便局ニ於テ前條第二項ニ依リ爲替證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ對スル債券價格表記郵便ニ依リ購買者ニ送達ス

第五條 債券代金ニ對スル爲替金ハ別ニ定ムル手續ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ於テ之カ拂渡ヲ爲スヘシ

第六條 債券賣切レ又ハ其他ノ事由ニ依リ債券ノ交付ヲ爲ス能ハサルトキハ債券代金ハ之ヲ其媒介請求人ニ還付ス

第七條 貯蓄債券購買代金ニ對スル爲替料金及貯蓄債券送達料金ハ左ノ割合ニ依リ總テ日本勸業銀行ヨリ之ヲ徴收ス

- 一 爲替金額五圓迄毎ニ 爲替料金參錢
- 一 債券一通毎ニ 送達料金五錢

第六編 稅則

第一章 非常特別稅

第一節 非常特別稅法

非常特別稅法(明治三十七年法律第三號
同三十九年法律一九號迄數次改)

第一條 (削除)

第二條 左ニ掲クル租稅ニ付テハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ增徴ス

一 地租

市街宅地

地價百分ノ十七箇五

郡村宅地

地價百分ノ五箇五

其ノ他ノ土地

地價百分ノ三箇

二 營業稅

營業稅法ニ依ル稅額十五割

三 所得稅

第一種 所得

甲 株主二十一人以上又ハ株主及社員ノ數二十一人以上ヲ以テ組織シタル株式會社又ハ株式合資會社

乙 其ノ他ノ法人

所得稅法ニ依ル稅額十五割

所得金額五千圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額八割

所得金額壹萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額九割

所得金額壹萬五千圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十割

所得金額貳萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十二割

所得金額參萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十七割

所得金額五萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額二十三割

所得金額拾萬圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額三十割

所得金額拾萬圓以上

所得稅法ニ依ル稅額四十割

第三種 所得

所得金額五百圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十割

所得金額千圓未滿

所得稅法ニ依ル稅額十一割

所得金額五千圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十三割
所得金額壹萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十四割
所得金額二萬五千圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十五割
所得金額貳萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十七割
所得金額參萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額十九割
所得金額五萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額二十一割
所得金額拾萬圓未滿	所得稅法ニ依ル稅額二十四割
所得金額拾萬圓以上	所得稅法ニ依ル稅額二十七割

四 酒稅

酒造稅法ニ依ル酒類

第一種	一石ニ付金貳圓
第二種	一石ニ付金貳圓
第三種	一石ニ付金貳圓
第四種	一石ニ付金貳圓
第五種	一石ニ付酒精分一度毎ニ金拾錢

麥酒

酒精又ハ酒精含有飲料

原容量百分中純酒精ノ容量二十以下ノモノ	一石ニ付金貳圓
原容量百分中純酒精ノ容量二十ヲ超ユルモノ	一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金拾錢
沖繩縣酒類出港稅	酒造稅法ニ依ル酒類ニ對スル増徴稅率ニ同シ

五 砂糖消費稅

第一種	百斤ニ付金壹圓
第二種	百斤ニ付金貳圓八拾錢
第三種	百斤ニ付金四圓參拾錢
第四種	百斤ニ付金四圓七拾錢

六 醬油稅

醬油稅則第二條本文ニ依ル場合

醬油

諸味一石ニ付金五拾錢

銀行會社法令大全 第六編 第一章 第一節 非常特別稅法

溜

醬油稅則第二條但書ニ依ル場合

醬油

溜

七 登錄稅

不動産ニ關スル登記

登錄稅法第二條第三號ノ登記

登錄稅法第二條第四號ノ登記

從來保有セル所有權ノ保存

華族世襲財產ノ創設

船舶ニ關スル登記

登錄稅法第三條第三號ノ登記

登錄稅法第三條第四號ノ登記

從來保有セル所有權ノ保存

登錄稅法第六條及第六條ノ二ニ依ル登錄稅

製成一石ニ付金五拾錢

諸味一石ニ付金貳拾五錢
製成一石ニ付金貳拾五錢

四百三十

不動産價格千分ノ二十

不動産價格千分ノ十

不動産價格千分ノ三

不動産價格千分ノ三

船舶價格千分ノ三十

船舶價格千分ノ十

船舶價格千分ノ二

課稅標準ノ千分比例ヲ以テ稅率ヲ定メタルモノ

課稅標準千分ノ一

一箇所毎ニ又ハ一件毎ニ稅額ヲ定メタルモノ

稅額金拾圓ナルトキ金五圓

稅額金五圓ナルトキ金貳圓

稅額金參圓ナルトキ金貳圓

稅額金貳圓ナルトキ金壹圓

稅額金壹圓ナルトキ金五拾錢

稅額金五拾錢ナルトキ金貳拾錢

鑛業ニ關スル登錄

試掘權ノ設定

増區又ハ増減區ニ依ル試掘權ノ變更

相續以外ノ原因ニ因ル試掘權ノ移轉

探掘權ノ新規登錄

増區又ハ増減區ニ因ル探掘權ノ變更

每一件金貳拾五圓

每一件金拾圓

每一件金拾圓

每一件金五拾圓

每一件金貳拾五圓

銀行會社法令大全 第六編 第一章 第一節 非常特別稅法

四百三十一

八 取引所税
相續以外ノ原因ニ因ル採掘權ノ移轉

四百三十二
每一件金貳拾五圓

九 狩獵免許税
國債及地方債證券

買賣各約定代金高萬分ノ六
同 萬分ノ二

一等
二等
三等
十 鑛區税

金貳拾圓
金貳拾圓
金五圓

試掘
採掘
十一 賣藥營業税

鑛區一千坪毎ニ一箇年金貳拾錢
鑛區一千坪毎ニ一箇年金貳拾錢

每方劑一箇年ノ製造高ニ對スル定價總額
三百圓未滿ノモノ
同五百圓未滿ノモノ

金壹圓
金叁圓

同千圓未滿ノモノ
同貳千圓未滿ノモノ
同參千圓未滿ノモノ
同五千圓未滿ノモノ
同壹萬圓未滿ノモノ
同貳萬圓未滿ノモノ
同參萬圓未滿ノモノ
同五萬圓未滿ノモノ
同七萬圓未滿ノモノ
同拾萬圓未滿ノモノ
同拾萬圓以上

金五圓
金七圓
金拾圓
金拾五圓
金貳拾圓
金參拾圓
金四拾圓
金五拾五圓
金七拾圓
金八拾五圓
金百圓

十二 印紙税

印紙税法第四條ニ掲ケタル證書帳簿但シ約束
手形及判取帳ヲ除ク
判取帳

印紙税金壹錢
印紙税金五錢

銀行會社法令大全 第六編 第一章 第一節 非常特別税法

四百三十三

約束手形

- 金高千圓以下 印紙税金壹錢
- 金高五千圓以下 印紙税金四錢
- 金高壹萬圓以下 印紙税金拾參錢
- 金高貳萬圓以下 印紙税金貳拾八錢
- 金高參萬圓以下 印紙税金五拾八錢
- 金高五萬圓以下 印紙税金壹圓拾八錢
- 金高拾萬圓以下 印紙税金貳圓參拾八錢
- 金高拾萬圓ヲ超ユルモノ 印紙税金四圓九拾八錢

前項第三號株主又ハ株主及社員ノ數ハ其ノ事業年度間ノ最多數ニ依ル

第一項第十一號ノ定價總額ハ前年中ノ總額ニ依ル

第三條 左ノ割合ニ依リ小切手ニ印紙税、砂金採取地稅、汽車、電車、汽船ノ乘

- 客ニ通行税、織物ニ消費税ヲ課ス
- 一 小切手印紙税 一通毎ニ金壹錢
- 二 砂金採取地稅

河床

河床ニ非サルモノ

採取區域一町毎ニ一箇年金參拾錢
採取區域一千坪毎ニ一箇年金參拾錢

三 通行税

- 二百哩又ハ二百海裡以上
 - 一等 金五拾錢
 - 二等 金貳拾五錢
 - 三等 金四錢
- 二百哩又ハ二百海裡未滿
 - 一等 金四拾錢
 - 二等 金貳拾錢
 - 三等 金參錢
- 百哩又ハ百海裡未滿
 - 一等 金貳拾錢
 - 二等 金拾錢
 - 三等 金貳錢

五十哩又ハ五十海裡未滿

一等

金五錢

二等

金參錢

三等

金壹錢

四 織物消費稅

毛織物

價格百分ノ十五

毛織物以外ノ織物

價格百分ノ十

通行稅ヲ賦課スヘキ場合ニ於テ汽車、電車又ハ汽船ニシテ等級ヲ分タサルモノニ在リテハ二等三等ノ稅額ヲ適用シ四等級以上ニ分チタルモノニ在リテハ最初ノ二等級ヲ以テ一等二等ト爲シ其ノ他ハ總テ三等ノ稅額ヲ適用ス

貸切、定期又ハ回数乘船車若クハ多人數乘船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ第一項第三號稅額ノ五倍トス

第四條 訴狀其ノ他民事訴訟ニ關スル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ

一 第一審ノ訴狀

財產權上ノ請求ニ係ルモノ

訴訟物ノ價格金五圓マテ

金五圓

同 拾圓マテ

金拾錢

同 貳拾圓マテ

金貳拾錢

同 五拾圓マテ

金參拾錢

同 七拾五圓マテ

金參拾錢

同 百圓マテ

金五拾錢

同 貳百五拾圓マテ

金五拾錢

同 五百圓マテ

金貳圓

同 七百五拾圓マテ

金貳圓

同 千圓マテ

金參圓

同 貳千五百圓マテ

金五圓

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ

金壹圓

財產權ノ請求ニ非サルモノ

金五拾錢

二 控訴狀

銀行會社法令大全 第六編 第一章 第一節 非常特別稅法

第一審ノ訴狀ニ増貼スヘキ印紙金額ノ半額
三 上告狀

第一審ノ訴狀ニ増貼スヘキ印紙金額ノ半額
四 支拂命令ノ申請

訴訟物ノ價額金拾圓ヲ超過スル場合ニ於テハ民事訴訟用印紙法及本法ニ依リ第一審ノ訴狀ニ貼用スヘキ印紙金額ノ半額ト金貳拾錢トノ差額
前項ノ差額ハ民事訴訟法第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スル場合又ハ第三百九十一條第二項ノ規定ニ依リ地方裁判所ニ訴ヲ起ス場合ニ於テ訴訟ニ付キ貼用スヘキ印紙ノ額ニ之ヲ通算スヘシ

五 其ノ他ノ申立又ハ申請
期日ノ變更辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立
中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受継ノ申立
從參加ノ申請
忌避ノ申請
和解ノ申立
費用額確定ノ申請

金貳拾錢

債務執行ノ宣告ヲ求ムル申立強制執行ノ停止又ハ續行若ハ執行處分ノ取消ノ申立
配當要求
家資分散ノ申立又ハ家費分散者ノ復權ノ申立
強制競賣又ハ強制管理ノ申立
債權又ハ他ノ財産權差押ノ申請
民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立

金五拾錢

證據調ノ申立
判決ノ送達ヲ求ムル申立
執行力アル正本ヲ求ムル申立
但シ此ノ正本數通ヲ求ムルトキハ每一通ニ假差押又ハ假處分ノ申請
抗告
故障

金五錢

答辯書其ノ他特ニ掲ケサル申立又ハ申請
銀行會社法令大全 第六編 第一章 第一節 非常特別稅法

左ニ掲クル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外金八拾錢ノ印紙ヲ増貼スヘシ

一 裁判上代位ノ申請

二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立

三 裁判上ノ代位競賣法ニ依ル競賣又ハ不動産登記ニ關スル抗告

訴訟物ノ價額貳拾圓以下ナルトキハ第一項第五號ノ規定ヲ適用セス

本條第一項ノ規定ハ再審ヲ求ムルノ訴狀及原狀回復ノ申立ニ之ヲ準用ス

第五條ノ一 商事非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ノ書面ニハ商事非訟事件印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ

一 左ニ掲クル申立

抗告

債權者ヨリ爲ス被産宣告ノ申立

金五拾錢

支拂猶豫ノ申立

二 其ノ他ノ申立又ハ申請

金五錢

破産手續ニ付テハ商事非訟事件印紙法第四條ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼ス

ヘシ

財團ノ價格金五圓マテ 金拾錢

同 拾圓マテ 金貳拾錢

同 貳拾圓マテ 金四拾錢

同 五拾圓マテ 金六拾錢

同 七拾五圓マテ 金六拾錢

同 百圓マテ 金壹圓

同 貳百五拾圓マテ 金壹圓

同 五百圓マテ 金四拾圓

同 七百五拾圓マテ 金四圓

同 千圓マテ 金六圓

同 貳千五百圓マテ 金拾圓

同 五千圓マテ 金拾圓

五千圓以上貳千圓ニ達スル毎ニ 金貳圓

前項ノ規定ハ商事非訟事件印紙稅法第六條及第七條ノ場合ニ之ヲ準用ス

商事非訟事件印紙法第五條ノ規定ハ本條第二項ノ規定ニ依リ印紙ヲ増貼スヘキ場合ニ之ヲ
準用ス

第五條ノ二 行政訴訟ノ書類ニハ其ノ正本ニ左ノ金額ノ印紙ヲ貼用スヘシ但シ裁判所書記ニ
口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ調書ニ印紙ヲ貼用スヘシ

一 訴狀

金七圓

二 故障

金壹圓

三 證據調ノ申立

金壹圓

四 判決ノ送達ヲ求ムル申立

金壹圓

五 期日ノ變更辯論ノ延期又ハ

辯論期日ノ指定ノ申立

金四拾五錢

六 從參加ノ申請

金四拾五錢

七 忌避ノ申請

金四拾五錢

八 費用額確定ノ申請

金四拾五錢

九 答辯書其ノ他前各號ニ掲ケ

サル申立又ハ申請

金貳拾五錢

裁判費用ヲ濟清スルコトノ假免除アリタル場合ノ外前項ニ依リ印紙ヲ貼用セサル行政訴訟ノ
書類ハ其ノ效ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アル片ハ裁判所ハ相當印
紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルコトヲ得

第五條ノ三 小切手ノ印紙稅ニ付テハ印紙稅法第六條、第八條、第九條、第十一條、第十三條及

第十四條ノ規定ヲ適用ス

第五條ノ四 砂金採取地稅ヲ徵收スル場合ニ於テ一町未滿又ハ一千坪未滿ノ端數ハ一町又ハ

一千坪トシテ計算ス

第五條ノ五 砂金採取稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

砂金採取業ノ許可又ハ採取地ノ變更ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル砂金採取地稅ニシテ初

年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ

前額ニ依リ納付スヘキ砂金採取地稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス砂金採取業ノ廢止ノ年ニ係ル

モノ亦同シ

第五條ノ六 通行稅ハ汽車、電車又ハ汽船營業者之ヲ徵收シ一箇月毎ニ取纏メ翌月十日迄ニ

之ヲ政府ニ納付スヘシ

汽車、電車又ハ汽船營業者カ前項ニ依リ徵收スヘキ通行稅ヲ納付セサルトキハ國稅徵收法

銀行會社法令大全 第六編 第一章 第一節 非常特別稅法

ニ依リ該營業者ヨリ之ヲ徵收ス

外國行ノ汽船ニ乗シ外國ニ赴ク者ニハ通行税ヲ課セス

當該官吏ハ汽車、電車又ハ汽船營業者ノ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第五條ノ七 繭、米及穀輸入税ニ付テハ關稅法及關稅率法中有稅品ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ消費税ヲ免除ス

一 外國ニ輸出スル織物又ハ製品トナシテ外國ニ輸出セムトスル織物

二 製造者ノ自用ニ供スル織物

消費税ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定

ムル所ニ依リ交付金又ハ相當印紙ヲ交付ス

第七條 毛織物ノ消費税ハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ルトキ引取入之ヲ納

付スヘシ

毛織物以外ノ織物ノ消費税ハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ移出スル前之ニ相當印

紙ヲ貼用シ税金ノ納付ニ代フヘシ但シ移出前織物ノ價格ニ依リ之ニ相當スル税金ヲ納付シ

織物ニ税金納付済ノ證印ヲ受ケタルトキハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

印紙ヲ貼用スヘキ場合ニ於テ税額壹錢未満ノ端數ハ總テ壹錢トシテ計算ス

第二項ニ依ル印紙ノ貼用、消印及税金納付済ノ證印ニ關スル方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條ノ一 消費税額ニ相當スル擔保物ヲ提出シタルトキハ政府ハ三箇月以内ノ期間ヲ以テ

毛織物消費税ノ徵收ヲ猶豫ス

第八條ノ二 左ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ納付セスシテ織物ノ移出ヲ爲

スコトヲ得

一 政府ノ承認ヲ得テ他ノ製造場ニ移出シ又ハ貯藏場ニ藏置スル爲織物ヲ移出スルトキ

二 政府ノ承認ヲ得テ染色、捺染、刺繡其ノ他ノ加工ヲ爲ス爲製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ

移出スルトキ

三 賃織場ヨリ賃織依頼者ニ織物ヲ引渡ストキ

四 一定ノ場所ニ於テ消費税ヲ納付スル爲政府ノ定メタル條件ニ從ヒ織物ヲ移出スルトキ

五 輸出ノ目的ヲ以テ製造セル特殊ノ織物ニシテ製造場ニ於テ政府ノ免税證印ヲ受ケタル

トキ

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第八條ノ三 消費税ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル毛織物ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場

合ニ於テ其ノ種類及數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ織物ヲ製造場ヨリ引取ルモ

更ニ消費税ノ徴収ヲ爲サス

第九條 第八條ノ二ノ場合ノ外製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際其ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ毛織物ノ價格ヲ評定ス

毛織物引取人前項ノ評定價格ニ不服ナルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ係ル價格ト第二項ノ評定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

第八條ノ二ノ場合ノ外製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物以外ノ織物ヲ移出セムトスル者ハ之ニ其價格ヲ表記シ消費税ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ但シ第七條第二項但書ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項價格表記ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 第六條、第八條ノ一、第八條ノ二又ハ第八條ノ三ニ該當スル場合ノ外消費税納付前ニ於テハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス

於テハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條 織物製造者ハ第六條、第八條ノ一、第八條ノ二又ハ第八條ノ三ニ該當スル場合ノ外消費税納付前ニ於テ織物ヲ他ニ引渡シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十二條 織物ヲ製造又ハ販賣セントスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ自用ニ供スル織物ノミヲ製造セントスル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條ノ一 織物製造者ハ其ノ製造場ニ於テ織物ノ賣買業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得製造ノ場所ト販賣ノ場所トヲ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條ノ二 織物販賣者印紙ヲ貼用シタル織物ヲ其ノ表記價格ヲ超エテ販賣セントスルトキハ販賣者ハ價格ヲ改記シ之ニ相當スル印紙ヲ増貼スヘシ

第十四條 織物ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ織物ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十五條 收税官吏ハ織物ノ製造場又ハ販賣場ニ立入り織物、其ノ原料、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條 收税官吏ハ運搬中ニ在ル織物ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認メタルトキハ收税官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十七條ノ一 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ罰金額ハ拾圓ヲ下ルコトヲ得ス

一 自用ニ供スル場合ノ外政府ニ申告セスシテ織物ヲ製造シタルトキ

二 外國ニ輸出スルモノトシテ消費税ヲ免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三 第八條ノ二ニ依リ移出シタル織物ヲ其ノ定メラレタル移出先ニ移入セス又ハ之ヲ消費シタルトキ

四 第十條又ハ第十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキ

第十七條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ脱税高五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ罰金額ハ五圓ヲ下ルコトヲ得ス

一 印紙ヲ貼用スヘキ織物ニシテ相當印紙ノ貼用ナキモノヲ販賣シタルトキ

二 第十三條ノ二ニ依ラスシテ印紙ヲ貼用シタル織物ヲ其ノ表記價格ヲ超エテ販賣シタルトキ

第十七條ノ三 織物販賣者印紙ヲ貼用スヘキ織物ニシテ相當印紙ノ貼用ナキモノヲ所持シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

收税官吏前項ノ犯則ヲ發見シタルトキハ處罰セラレタルト否トヲ問ハス販賣者ノ費用ヲ以テ其ノ織物ニ相當印紙ヲ貼用スルコトヲ得

前項ニ依ル費用ノ徴收ニハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

一 織物ノ製造者又ハ販賣者織物ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實 申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

二 織物ニ印紙ヲ貼用スヘキ場合ニ於テ命令ノ定メタル方法ニ依リ貼用又ハ消印ヲ爲サ、ルトキ

三 織物ニ價格ヲ表記スヘキ場合ニ於テ命令ノ定メタル方法ニ依リ表記ヲ爲サ、ルトキ

四 收税官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキ但シ刑法ニ正條アル場合ハ刑法ニ依ル

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第二十條 織物ノ製造者、販賣者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業

ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第二十一條 織物ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十二條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ地租附加税又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課税スルコトヲ得ス

一 北海道、府縣、北海道ノ區一級町村及二級町村、沖繩縣ノ區及間切島

附加税ノミヲ課スルトキ 地租 十分ノ五

段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付平均金四拾錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テ段別割ノ總額ハ總段別地租額ノ十分ノ五ト附加税ノ總額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二 其ノ他ノ公共團體

附加税ノミヲ課スルトキ 地租 十分ノ三

段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付平均金四拾錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テ段別割ノ總額ハ總段別地租額ノ十分ノ三ト附加税

總額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

北海道府縣以外ノ公共團體ハ營業税又ハ所得税百分ノ三十ヲ超過スル附加税ヲ課スルコトヲ得ス

第二條ニ依ル地租、營業税、所得税及礦區税増徴額ニ對シテハ附加税ヲ課スルコトヲ得ス
府縣費ヲ市町村ニ分賦シタル場合ニ於テハ其ノ金額以內ニ限リ市町村ハ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ第二項又ハ第二項ノ制限ヲ超過シテ附加税又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加税及段別割ヲ併課スルコトヲ得

明治三十六年度以前ニ起シタル負債ノ元金償還及利子仕拂ノ爲若ハ非常ノ災害ニ依リ復舊工事ノ爲費用ヲ要シ又ハ其ノ費用ノ分賦ヲ受ケタル場合ニ於テ特ニ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第一項又ハ第二項ノ制限ヲ超過シテ附加税又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加税及段別割ヲ併課スルコトヲ得

北海道ノ宅地及海産干場ニ付テハ特ニ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第一項ノ制限ヲ超過シテ附加税又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加税及段別割ヲ併課スルコトヲ得
水利ノ爲ニ費用ヲ要スル場合ニ於テ特ニ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第一項ノ制限ヲ超過シテ附加税又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加税及段別割ヲ併課スルコトヲ得

第一項及第二項ノ制限ハ特ニ賦課率ヲ定メタル特別法令ノ適用ヲ妨ケス
附則

第二十三條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ輸入税ニ關シテハ本法發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

地租、營業稅、所得稅ニ關シテハ明治三十七年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十二條ノ課稅制限ハ明治三十七年度ヨリ之ヲ適用ス

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ノ稅目又ハ稅率ニシテ本法ノ規定ニ抵觸スルモノハ其ノ抵觸ノ部分ニ限り其效力ヲ失フ

第二十四條 (削除)

第二十五條 (削除)

第二十六條 本法施行後保稅倉庫ニ庫入シタル砂糖、ニシテ和蘭標本色相第十五號未滿ノモノ及糖蜜ニ付テハ庫出ノ日ニ於テ行ハルル輸入稅率ヲ適用ス

第二十七條 (削除)

非常特別稅法中改正法律(明治三十七年一二月法律第一號)ノ附則(本文ノ改正ハ前掲各本ノ條ニ付テ加除シタリ)

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ不動産及船舶ニ關スル登錄稅ニ關シテハ明治三十八年四月一日ヨリ、鑛業ニ關スル登錄稅及試掘鑛區稅ニ關シテハ鑛業法施行ノ日ヨリ、毛織物以外ノ織物消費稅ニ關シテハ明治三十八年二月一日ヨリ、輸入稅ニ關シテハ本法發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

地租、營業稅、所得稅、賣藥營業稅ニ關シテハ明治三十八年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ明治三十八年分賣藥營業稅前半年分ノ増徴額ハ本法施行後一箇月内ニ之ヲ納ムヘシ

明治三十八年分鑛區稅ノ増徴額及砂金採取地稅ハ本法施行ノ月ヨリ月割ヲ以テ計算シ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

本法施行前鑛業條例ニ依リ鑛業ニ關スル出願ヲ爲シ既ニ非常特別稅法ニ依ル登錄稅ノ増徴額ヲ納メタル者鑛業法ニ依リ其ノ事項ニ付鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ更ニ本法ニ依ル増徴額ヲ納ムルコトヲ要セス

本法施行前ヨリ織物ヲ製造又ハ販賣シ本法施行後引續キ之ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ本法施行後三十日以内ニ政府ニ申告スヘシ但シ毛織物ヲ製造スル者及自川ニ供スル毛織物以外ノ織物ノミヲ製造スル者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ期間内ハ従前ノ製造又ハ販賣ヲ繼續スルコトヲ得

本法施行ノ際織物販賣者ノ所持スル毛織物以外ノ織物ニハ其ノ價格百分ノ十二相當スル印紙ヲ貼用スヘシ但シ織物販賣者ハ本法施行ノ月ヨリ毎月ノ販賣高百分ノ十二相當スル金額ヲ其ノ翌月ヨリ一箇年以内ニ政府ニ納付スルノ條件ヲ以テ印紙貼用ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項但書ニ依リ印紙免除ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ本法施行後二十日以内ニ本法施行ノ際ニ所持シタル毛織物以外ノ織物ノ數量價額ヲ記載シ其ノ旨政府ニ申請スヘシ

本法施行ノ際織物ヲ販賣スル者ニハ本法施行後三十日以内ニ限り第十七條ノ三ノ規定ヲ適用セス

附則第七項ニ依リ印紙ヲ貼用スヘキ場合ニ於テハ第七條第二項乃至第四項ノ規定ヲ準用ス

附則第八項ニ依リ印紙貼用ノ免除ヲ得タル場合ニ於テハ其ノ織物ニ移出前税金納付済ノ證印ヲ受クヘシ但シ小賣ニ供スルモノハ此ノ限ニ在ラス

附則第八項ニ依リ印紙貼用ノ免除ヲ得タル者ハ毎月其ノ織物販賣高ヲ政府ニ申告スヘシ

附則第八項ニ依リ印紙貼用ノ免除ヲ得タル者ノ納ムヘキ金額ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第二節 非常特別稅法施行規則

非常特別稅法施行規則(明治三十七年三月第八十五號 同三十八年勅令第一號迄二次改)

第一條 本令ニ於テ製造者又ハ製造セムトスル者ト稱スルハ自用ニ供スルモノノミヲ製造セムトスル者ヲ包含ス

第一條ノ二 株式會社又ハ株式合資會社カ所得稅法施行規則第三條ニ依リ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スル場合ニ於テハ其ノ事業年度間ニ於テ最多數ナリシ時ニ於ケル株主又ハ株主及社員ノ數ヲ併セ申告スヘシ

第一條ノ三 賣藥營業者ハ毎年一月十五日毎ニ一方劑毎ニ前年中ニ製造シタル賣藥ノ定價總額ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第一條ノ四 通行稅ハ汽車、電車又ハ汽船ノ乘船車賃ヲ領收スルトキ之ヲ徵收スヘシ

第一條ノ五 汽車、電車又ハ汽船營業者ハ拂込書及計算書ヲ添附シ毎月十日迄前月分ノ通行稅ヲ各營業場所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ但シ營業者カ本店所在地所轄稅務署ノ許可ヲ得タルトキハ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムコトヲ得

官設鐵道ニ於テ通行稅ヲ金庫ニ拂込ムトキハ計算書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第二條 織物ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ

申告スヘシ

四百五十六

販賣場ヲ有シテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ販賣場ヲ定メ販賣場所轄稅務署ニ申告スヘシ
販賣場ヲ有セスシテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ其居所所轄稅務署ニ其ノ旨申告スヘシ

第三條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ織物製造場ノ圖面若ハ製造用ノ器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ織物製造者ハ之ヲ提出スヘシ

第四條 織物製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造所ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セントスルトキハ移轉先ノ販賣場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有セサル者其ノ居所ヲ移轉シタルトキハ其ノ旨移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第五條 織物製造者ニシテ期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ著手スル毎ニ著手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 第二條若ハ第五條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物製造業又ハ販賣業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ
第八條 織物製造者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條 外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セントスル織物ニ付消費税ノ免除ヲ得ントスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取り又ハ移出スル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ
輸出ノ目的ヲ以テ製造セラレ、織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上
不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ所轄稅務署ハ前項ノ承認ノ省畧ヲ許可スルコトヲ得製
品ト爲シテ外國ニ輸出セントスル織物ノミヲ製造スル製造場又ハ之ヲ藏置スル貯藏場ニシ
テ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキ亦同シ

前二項ノ場合ニ於テ所轄稅務署カ織物又ハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非サレハ消費税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第九條ノ二 消費税ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出スル場合ニ於テ輸出港稅關ノ検査ヲ受ケ其ノ織物又ハ其ノ物品ノ原料タル織物ニ付キ現金又ハ印紙ヲ

以テ消費税ヲ納付シタルノ證憑ヲ具シテ出願シタルトキハ消費税額ニ相當スル金額ヲ交付ス但シ印紙ヲ貼用シタル織物ヲ輸出スル場合ニ於テハ消費税納付ノ證憑ヲ具スルコトヲ要セス

第十條 製造者ニシテ其ノ自用ニ供スル織物ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスルモノハ製造場外ニ移出セムトスルトキ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第十一條 非常特別稅法第八條ノ二ニ依リ政府ノ承認ヲ得又ハ政府ノ免稅證印ヲ受クヘキ場合ニ於テハ所轄稅務署ニ對シテ其ノ承認又ハ免稅證印ヲ求ムヘシ

第九條第三項ノ規定ハ之ヲ前項ノ場合ニ準用ス

第十二條 非常特別稅法第六條及第八條ノ二ノ場合ノ外製造場ヨリ毛織物ヲ引取ラムトスル者ハ其ノ旨製造場所轄稅務署ニ申告シ併セテ其ノ價格ヲ申告スヘシ

第十二條ノ二 毛織物以外ノ織物ニ印紙ヲ貼用スル場合ニ於テハ織物ニ價格ヲ表記シ之ニ相當スル印紙ヲ貼用シ織物面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スヘシ但シ印紙貼用者ハ結目ナキ絲ヲ以テ紙片ヲ織物ニ縫著シ紙片ニ價格ヲ表記シ其ノ絲ノ結束シタル場所ニ相當印紙ヲ貼用シ紙面ノ印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スルコトヲ得

第十二條ノ三 非常特別稅法第七條第二項但書ニ依リ税金ノ納付ヲ爲サムトスル者ハ織物ノ

移出前其ノ旨所轄稅務署ニ申出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ織物又ハ織物ニ縫著シタル紙片ニ納稅濟ノ旨ヲ記載シタル切符ヲ貼附シ又ハ織物ニ納稅濟ノ證印ヲ捺捺スヘシ

第十三條 金庫所在地以外ニ限リ收稅官吏ハ自ラ消費税金ノ領收ヲ扱フコトヲ得前項ノ場合ニ於テ收稅官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十四條 非常特別稅法ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢及所轄稅務署ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル

擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提供スヘシ

第十五條 擔保トシテ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ稅務署ハ直ニ消費税ヲ徵收ス

第十六條 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費税納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費税免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 消費税ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ税金ニ充ツ

擔保物ヲ以テ税金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ有價證券ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第十七條ノ二 印紙ヲ貼用シタル織物又ハ納稅濟ノ證印アル織物ニ加工セムトスル場合ニ於テ所轄稅務署ニ申出テ其ノ承認ヲ得タルトキハ代リ印紙ノ交付ヲ請求シ又ハ更ニ納稅濟ノ證印ヲ證求スルコトヲ得

第十七條ノ三 印紙ヲ貼用シタル織物又ハ納稅濟ノ證印アル織物ヲ小切レト爲シテ販賣セムトスルトキハ成ルヘク印紙貼用又ハ證印ナキ部分ヨリ之ヲ切離スヘシ但シ印紙貼用又ハ證印アル部分ヲ切離スル必要アルトキハ其ノ貼用印紙又ハ證印アル部分ヲ切取り之ヲ保存シ毎月分ヲ取纏メ之ヲ所轄稅務署ニ提出シ廢棄ノ處分ヲ受クヘシ

第十八條 織物製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタル者ニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル種類、數量及其ノ製造ノ日

四 他ニ引渡シタル種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第十九條 織物販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル種類、數量、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 二 販賣シタル種類、數量、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十條 本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場又ハ藏置場ニ出張シタル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條 收稅官吏ハ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラル、織物ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

第二十三條 本令中稅務署ト稱スルハ臺灣ニ在リテハ應ラ謂フ
附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法第二十四條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第二條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

非常特別稅法施行規則中改正勅令(明治三十八年第一號)ノ附則(改正本文ハ前掲各本條ニ付テ直チニ加除シタリ)

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ三ニ依ル申告ハ明治三十八年ニ限り本令施行後十五日以内ニ之ヲ爲スヘシ
明治三十八年法律第一號附則ニ依リ申告又ハ申請ヲ爲シ若ハ税金納付済ノ證印ヲ受クヘキ場合ニ於テハ所轄稅務署ニ對シテ之ヲ爲スヘシ

第二章 登錄稅

第一節 登錄稅法

登錄稅法(明治二十九年三月法律第二十七號
同三十九年法律第三五號迄數次改正)

第一條 登錄稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ五

二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ五

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ四十
但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人
カ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ不動産價格ノ千分ノ十

四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ二十五

五 從來保有セル所有權ノ保存 不動産價格 千分ノ二

六 共有物ノ分割 分割ニ因リテ受クル不動産ノ價格 千分ノ五

七 永代ノ地上權ノ取得 不動産價格 千分ノ二十五

八 地上權、永小作權ノ取得 不動産價格 千分ノ二

存續期間十年未滿 不動産價格 千分ノ四

存續期間二十年未滿 不動産價格 千分ノ四

存續期間三十年未滿 不動産價格 千分ノ四

存續期間三十年以上
不動産價格 千分ノ五
存續期間ノ定ナキモノ
不動産價格 千分ノ五

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其
ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

九 賃借權ノ取得

存續期間十年未滿 不動産價格 千分ノ一
存續期間十年以上 不動産價格 千分ノ二
存續期間ノ定メナキモノ 不動産價格 千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其
ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

十 地役權ノ取得

要役地價格 千分ノ一
不動産價格 千分ノ二十

十一 華族世襲財產ノ創設

先取特權ノ保存又ハ取得債權金額又ハ不動産工事費用豫算金額 千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡
トキハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十三 質權、抵當權ノ取得

債權金額 千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡
キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十四 競賣、強制管理ノ申立

債權金額 千分ノ六

但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモ
ノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十五 假差押、假處分

債權金額 千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ
價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十六 抵當アル債權ノ差押

債權金額 千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以
テ債權金額ト看做ス

十七 相續財產ノ分離

不動産價格 千分ノ六
所有權ニ付テハ 不動産價格 千分ノ一

十八 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

不動産每一箇 金貳拾錢

十九 假記登

不動産每一箇 金貳拾錢

二十 (削除)

二十一 附記登記

不動産每一箇 金拾錢

但シ一件ニ付税額金參拾錢ヲ超ユルトキハ參拾錢トス

二十二 登記ノ更正、變更又ハ抹消 不動産每一箇 金拾錢

但シ一件ニ付税額金參拾錢ヲ超ユルトキハ參拾錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三

二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三

四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ二十

得

五 從來保有セル所有權ノ保存 船舶價格 千分ノ十五

六 賃借權ノ取得 船舶價格 千分ノ一

存續期間十年未滿

船舶價格 千分ノ一

存續期間十年以上

船舶價格 千分ノ二

存續期間ノ定メナキモノ

船舶價格 千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録税ヲ計算ス

七 質權、抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

八 競賣ノ申立 債權金額 千分ノ六

但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

九 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復 船舶每一箇 金貳拾錢

十二 假登記 船舶每一箇 金貳拾錢

十三 (削除)

十四 附記登記 船舶每一箇 金拾錢

十五 登記ノ更正、變更又ハ抹消 船舶每一箇 金拾錢

但シ一件ニ付稅額金參拾錢ヲ超ユルトキハ參拾錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條ノ二 鐵道抵當簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ二

三 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金貳圓

第三條ノ三 工場財團登記簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

三 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一

四 登記ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金貳圓

第三條ノ四 鑛業財團登記簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

三 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一

第四條 船舶ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録 每十噸 金五拾錢

二 轉籍 每十噸 金拾錢

三 除籍
四 登録ノ變更

每十噸 金五錢
船舶每一箇 金拾錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
石數ヲ以テ積疊ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 地價 千分ノ二十
- 二 地價ノ設定 地價 千分ノ十
- 三 地價ノ修正 地價 千分ノ十
- 四 開墾 地價 千分ノ十
- 五 開墾後下年期付與 地價 千分ノ十
- 六 地價据置年期付與 地價 千分ノ十
- 七 新開免租年期延長 地價 千分ノ十
- 八 後下年期、地價据置年限ノ延長 地價 千分ノ十
- 九 低價年期ノ付與 地價 千分ノ一

- 十 地租條例第二十二條ノ地價ノ修正 地價 千分ノ一
- 十一 地價ノ復舊 地價 千分ノ一

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地々價ノ比準ニ依ル

第六條 商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ第一號、第三號、第六號、第九號ノ場合ニ於テ稅金額拾圓未滿ナルトキハ拾圓トス

- 一 合名會社、合資會社設立 財產ヲ目的トスル出資ノ價格 千分ノ三
- 二 合名會社、合資會社出資増加 財產ヲ目的トスル増出資ノ價格 千分ノ三
- 三 株式會社設立 拂込株金額 千分ノ四
- 四 株式會社資本増加 増資拂込株金額 千分ノ四
- 五 株式會社第二回以後ノ株金拂込 毎回拂込株金額 千分ノ四
- 六 株式合資會社設立 拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ四
- 七 株式合資會社資本増加 増資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ四

- 八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込 毎回拂込株金額 千分ノ四
- 九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立 拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ一
合併ニ因ル會社資本ノ増加
- 十 增資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ一
- 十一 債券發行 債權總金額 千分ノ一
- 十二 支店設置 每一箇所 金拾圓
- 十三 本店又ハ支店ノ移轉 每一件 金五圓
- 十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金五圓
- 十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金五圓
但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス
- 十六 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金五圓
- 十七 解散 每一件 金壹圓
- 十八 清算人ノ選任、解任又ハ變更 每一件 金壹圓
- 十九 清算ノ結了 每一件 金壹圓

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金壹圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ
財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從テ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 法人ノ設立(民法施行法ニ依リ法人ト認メラレタルモノノ新ニ受クル登記トモ) 每一件 金五圓
 - 二 法人設立後ノ事務所設置 每一件 金參圓
 - 三 事務所ノ移轉 每一件 金貳圓
 - 四 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金壹圓
 - 五 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金壹圓
 - 六 解散 每一件 金五拾錢
 - 七 清算人ノ選任、解任又ハ變更 每一件 金五拾錢
 - 八 清算ノ結了 每一件 金五拾錢
- 主タル事務所ニアラサル事務所所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五拾錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ

第六條ノ二 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從テ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 商號ノ新設又ハ取得 每一件 金五圓
 - 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金五圓
 - 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金五圓
 - 四 商法第五條第七條ニ依ル登記 每一件 金貳圓
 - 五 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記 每一件 金貳圓
 - 六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金壹圓
 - 七 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金壹圓
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五拾錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ
- 第七條 左ノ事項ニ付キ辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 新規登録 金貳拾圓
 - 二 登録 金拾圓
 - 三 取消ノ請求 金壹圓
- 第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

- 醫師 金貳拾圓
 - 藥劑師 金拾貳圓
 - 獸醫 金拾貳圓
 - 蹄鐵工 金五圓
 - 假開業醫師 金五圓
 - 假免許獸醫 金參圓
 - 假免許蹄鐵工 金壹圓
- 第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ノ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 二 登録事項ノ變更 每一件 金五拾錢
 - 一 新規登録
 - 甲種船長 金拾五圓
 - 甲種一等運轉士 金拾圓
 - 甲種二等運轉士 金六圓
 - 乙種船長 金拾圓

- 乙種二等運轉士 金四圓
- 乙種二等運轉士 金參圓
- 丙種船長 金六圓
- 丙種運轉士 金貳圓
- 機關長 金拾五圓
- 一等機關士 金拾圓
- 二等機關士 金六圓
- 三等機關士 金參圓
- 水先人 金貳拾圓
- 二 登錄事項ノ變更 每一件 金五拾錢
- 第十條 著作權ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
 - 一 文藝、學術、美術ノ著作物 每一種一回 金拾圓
 - 但シ演劇脚本及寫眞ヲ除ク
 - 一 新聞紙及定期刊行物 每一號 金五拾錢
 - 一 演劇脚本 每一種一回 金五拾錢

- 一 寫眞 每一版 金五圓
- 一 著作權ノ讓渡又ハ質入 每一件 金五圓
- 一 無名又ハ變名著作物ノ著作權ノ實名登錄 每一件 金五圓
- 第十一條 特許ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
 - 一 讓渡又ハ共有 每一件 金拾圓
 - 二 質入 每一件 金五圓
- 第十二條 意匠ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
 - 一 讓渡又ハ共有 物品一類毎ニ 金貳圓
 - 二 質入 物品一類毎ニ 金壹圓
- 第十二條ノ二 實用新案ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
 - 一 讓渡又ハ共有 每一件 金五圓
 - 二 實施ノ許諾又ハ質入 每一件 金貳圓
- 第十三條 商標ニ關シ左ノ事項ノ登錄ヲ受クル者ハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ
 - 讓渡又ハ共有 商品一類毎ニ 金拾圓
- 第十四條 鑛業權ニ關シ鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

- 一 試掘權ノ設定 每一件 金七拾五圓
- 二 試掘權ノ變更
 - 增區又ハ増減區 每一件 金參拾五圓
 - 減區 每一件 金拾圓
- 三 試掘權ノ移轉
 - 相續 每一件 金拾圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金參拾五圓
- 四 探掘權ノ設定
 - 新規登錄 每一件 金百五拾圓
 - 鑛區合併 每一件 金五拾圓
 - 鑛區分割 設定額區 每一件 金五拾圓
- 五 探掘權ノ變更
 - 鑛區訂正 每一件 金五拾圓
 - 増區又ハ増減區 每一件 金七拾五圓
 - 減區 每一件 金貳拾圓

- 六 探掘權ノ移轉
 - 相續 每一件 金貳拾圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金七拾五圓
- 七 抵當權ノ設定
 - 新規登錄 債權金額 千分ノ六
 - 鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定 每一件 金五圓
- 八 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更 每一件 金拾圓
- 九 抵當權ノ移轉
 - 相續 每一件 金五圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金拾圓
- 十 共同鑛業者ノ脱退 每一件 金五圓
- 十一 滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 十二 廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅 每一件 金五圓

銀行會社法令大全 第六編 第二章 第一節 登錄稅法

十三 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

四百八十
金拾錢

債権金額ニ因リ課税額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債権金額ナキトキハ債権ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債権金額ト看做ス

第十五條 (削除)

第十六條 (削除)

第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徴收スルコトヲ得

第十八條 登録税ハ總テ金壹錢以上トス壹錢未滿ノ端數ハ壹錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條 左ニ掲クルモノニハ登録税ヲ課セス

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記
 - 二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記
 - 三 社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記
 - 四 明治六年第十八號布告地所質入書入規則及同八年第四十八號布告建物書入質入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債権者ヨリ申請スル登記
- 第十九條ノ二 登記所ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課税標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ

二名ノ評價人ヲ選定シ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム前項ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費手當ハ登記申請者ノ負擔トス官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ評價人トナルコトヲ得ス

附則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

登録税法改正法律(明治三十七年十二月)ノ附則(本文ノ改正ハ前掲各本條ニ付テ直チニ加除ヲ加ヘタリ)

附則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ鑛業原簿ノ登録ニ付テハ鑛業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前鑛業條例ニ依リ鑛業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ登録税ヲ納メタル者鑛業法ニ依リ其ノ事項ニ付鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ更ニ登録税ヲ納ムルコトヲ要セス

第二節 登録税法施行規則

登録税法施行規則(明治三十二年五月勅令第二百五號)
(同三十八年勅令第七七號ヲ以テ追加)

- 第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
- 第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申請シテ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得
- 第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記又ハ假登記ヲ登記所ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登録税ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領證書ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ登記囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所ニ送付スヘシ
- 第四條 土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ通知ニ依リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ
- 第五條 土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セ又ハ現金納付ノ手續ヲ爲ササルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 第五條ノ二 管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登録税ヲ徵收スヘシ
- 第六條 登録税法第十九條ノ二ニ依ル評價人ノ旅費ハ實費トシ手當ハ一日金五拾錢以上貳圓以下ノ範圍内ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ支給ス

第三節 臺灣土地登記稅

第一款 臺灣土地登記稅規則

臺灣土地登記稅規則(明治三十八年五月)
(律令 第五號)

- 第一條 土地ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登記稅ヲ納ムヘシ
 - 一 相續ニ因ル業主權ノ取得
 - 土地ノ價格 千分ノ十五
 - 二 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル業主權ノ取得
 - 土地ノ價格 千分ノ四十
 - 三 前二號以外ノ原因ニ因ル業主權ノ取得
 - 土地ノ價格 千分ノ三十
 - 四 從來保有セル業主權ノ保存
 - 土地ノ價格 千分ノ三
 - 五 共業地ノ分割
 - 分割ニ因リテ受クル土地ノ價格 千分ノ六

六 賤耕權ノ取得

存續期間二十年未滿

土地ノ價格

千分ノ三

存續期間五十年未滿

土地ノ價格

千分ノ六

存續期間五十年以上

土地ノ價格

千分ノ八

存續期間ノ定メナキモノ

土地ノ價格

千分ノ六

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登記稅ヲ計算ス

七 典權胎權ノ取得

債權金額

千分ノ十

但シ債權金額ナキトキ又ハ典權、胎權ノ目的タルモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ典權、胎權ノ目的タルモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

八 競賣強制管理ノ申立

債權金額

千分ノ七

但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

九 假差押、假處分

債權金額

千分ノ五

但シ假差押、假處分ニ付スヘキモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十 胎權ノアル債權ノ差押

債權金額

千分ノ七

但シ差押ニ付スヘキモノ、價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノ、價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一 相續財産ノ分離

業主權ニ付テハ

千分ノ七

土地ノ價格

業主權以外ノ權利ニ付テハ

土地ノ價格

千分ノ二

十二 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

土地每一筆

金參拾錢

十三 假登記

土地每一筆

金參拾錢

十四 附記登記

土地每一筆

金拾五錢

十五 登記ノ更正、變更又ハ抹消

土地每一筆

金拾五錢

但シ一件ニ付稅額金四拾五錢ヲ超ユルトキハ金四拾五錢トス

第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ其業地持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第二條 業主權カ法人ノ性質ヲ有スル公業ニ移轉スルトキハ前條第二號ノ登記稅ヲ納ムヘシ

第三條 登記稅ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ但シ登記稅額貳百圓以上ナルトキハ現金ヲ以テ納

付セシムルコトヲ得

第四條 登記稅ハ總テ金壹錢以上トス金壹錢未滿ノ端數ハ金壹錢トシテ計算ス

第五條 左ニ掲グルモノニハ登記稅ヲ課セス

一 政府自己ノ爲ニスル登記

二 街庄其ノ他公共ノ團體ニ於テ公用ニ供スル土地ノ登記

三 祠廟ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記

第六條 登記官廳ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ二名ノ評價人ヲ選定シ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム

前ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費日當ハ登記申請者ノ負擔トス其ノ額ハ臺灣總督之ヲ定ム

官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ評價人トナルコトヲ得ス

附 則

此ノ規則ハ臺灣土地登記規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款 臺灣土地登記稅施行規則

臺灣土地登記稅施行規則(明治三十八年六月陸海
總督府令第四十五號)

四百八十六

- 第一條 印紙ヲ以テ納ムル土地登記稅ハ登記申請書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
- 第二條 現金ヲ以テ納ムル土地登記稅ハ地方廳ニ納付シ其ノ稅金領收證ヲ登記申請書ニ添附スヘシ

土地登記稅納付書ハ別記様式ニ依ルヘシ

- 第三條 官廳ヨリ登記又ハ假登記ヲ登記官廳ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登記稅ヲ納ムヘキ者ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出セシメ登記囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ領收證ヲ添附シテ登記官廳ニ送致スヘシ

- 第四條 登記官廳ハ印紙ヲ貼用シタル書類ヲ受理シタルトキハ其ノ印紙ヲ黒肉ヲ以テ消印スヘシ又免稅ニ屬スル書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類ニ朱肉ヲ以テ免稅印ヲ押捺スヘシ

- 第五條 登記官廳ハ第二條第一項ニ依リ稅金領收證ヲ添附シタル書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類ニ「現金納付濟」ノ印ヲ押捺スヘシ

- 第六條 土地登記稅規則第六條第二項ノ評價人ノ旅費ハ實費トシ手當ハ一日金五拾錢以上貳圓以下ノ範圍内ニ於テ登記官廳ノ見込ヲ以テ之ヲ支給ス

(別記様式ハ之ヲ略ス)

第三章 營業稅

第一節 營業稅法

營業稅法(明治二十九年三月法律第三十三號 同三十五年法律第十八號迄二次改正)

第一條 左ニ掲クル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業
- 一 銀行業
- 一 保險業
- 一 金錢貸付業
- 一 物品貸付業
- 一 製造業
- 一 運送業
- 一 倉庫

- 一 運河業
- 一 棧橋業
- 一 船渠業
- 一 船舶碇繫場業
- 一 貨物陸揚場業
- 一 鐵道業
- 一 土木請負業
- 一 勞力請負業
- 一 印刷業
- 一 寫真業
- 一 席貸業
- 一 旅人宿業
- 一 料理店業
- 一 公ナル周旋業
- 一 代辨業

一 仲立業

一 仲買業

第二條 營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小

賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト看做ス

一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者

二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者

三 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鶏卵、牛乳等其ノ產物ヲ販賣スル者

四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者

五 動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者

一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條ノ營業者其ノ製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ

資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條 營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物、器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ製造業ト看做ス

資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條ノ一 運賃又ハ手数料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送

トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條ノ二 私設鐵道法ニ依リ運送ノ業ヲ營ム者ヲ鐵道業トシテ營業稅ヲ課ス

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條 印刷業、寫眞業ニシテ職工雇人ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者及土木請負業、勞力

請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第八條 貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但シ建物賃借價格五拾圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第九條 營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木賃宿ニハ營業稅ヲ課セス

第十條ノ一 營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス

第十條ノ二 營業稅ヲ課スヘキ公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業ハ一箇年報償金額百圓以上ノ者トス

第十一條 左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス

- 一 政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌
- 二 自己ノ採掘又ハ採收シタル礦物ノ販賣
- 三 度量衡ノ製作、修覆、販賣

第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅率

物品販賣業

賣上金額
〔鋪賣ハ萬分ノ五
小賣ハ萬分ノ十五
從業者
一人毎ニ金壹圓
千分ノ四十
資本金額
一人毎ニ金壹圓
千分ノ二

銀行業、保險業、金錢
貸付業、物品貸付業

〔建物賃貸價格
從業者
一人毎ニ金壹圓
千分ノ四十
資本金額
一人毎ニ金壹圓
千分ノ二

倉庫業

〔建物賃貸價格
從業者
一人毎ニ金壹圓
千分ノ四十
資本金額
一人毎ニ金壹圓
千分ノ二

製造業、印刷業、寫真
業

〔資本金額
從業者
一人毎ニ金壹圓
千分ノ一
〔建物賃貸價格
從業者
一人毎ニ金壹圓
千分ノ四十
從業者ノ内職工勞役者
一人毎ニ金參拾錢
千分ノ二半

運送業、運河業、棧橋
業、船渠業、船舶碇繫
場業、貨物陸揚場業

〔資本金額
從業者
一人毎ニ金壹圓
千分ノ一
〔收入金額
從業者
一人毎ニ金壹圓
千分ノ十

鐵道業

〔收入金額
從業者
一人毎ニ金壹圓
千分ノ十

土木請負業

〔請負金額
從業者
一人毎ニ金壹圓
千分ノ二

席貸業、料理店業

〔建物賃貸價格
從業者
一人毎ニ金壹圓
千分ノ六十

旅人宿業

〔建物賃貸價格
從業者
一人毎ニ金壹圓
千分ノ四十

公ナル周旋業、代辯
業、仲立業、仲買業、

〔報償金額
從業者
一人毎ニ金壹圓
千分ノ十五

第十三條 此ノ税法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ業名及課稅標準
ヲ詳記シ政府ニ届出ヘシ但シ新ニ開業シタル者ハ其ノ際本條ノ届出ヲ爲スヘシ
營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ届出ヘシ

第十四條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ
課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一ニ就テ計算ス其ノ稅率
異ナルトキハ重キニ從フ

第十五條 物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公ナル周旋業、
代辦業、仲立業、仲買業ハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス
前項ニ掲ケサル營業ニシテ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ其ノ資本ヲ區分シタルトキ

ハ各別ニ營業稅ヲ課ス其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス但シ内國ト外國トニ
涉リ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ資本ヲ區分セサルモノハ内國ニ於ケル各店舗其他
ノ營業場ニ於テ使用スル資本金額ヲ見積リ内國ノ分ニ限リ各別ニ之ヲ課ス

第十六條 第十三條ニ依リ届出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ開業シタ
ル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

一 賣上金、收入金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依リ但シ前年中ニ開業シタルモノハ
豫算ニ依ル

二 資本金及建物賃賃價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル

三 從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル

資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 納稅義務ヲ有スル營業者第十三條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ届出タル課稅標
準ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課稅標準ヲ算定スルコトヲ得

第十八條 建物賃賃價格ハ店舗其ノ他營業用ノ土地家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居
ニ供スルモノ其ノ他直接ニ營業ニ使用セサルモノアルモ同一區域内ニアリテ自己ノ所用ニ
係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用ウルニ拘ラス土地建物ノ賃借上借主ヨリ貸主ニ支拂フ
モノヲ以テ建物賃賃價格ヲ計算ス

借家ニ非サル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ照準シテ建物賃賃價格ヲ定ム近傍ニ照準スヘ
キ借家ナキトキハ其ノ土地、家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其ノ百分ノ五、家屋ハ百分
ノ十ヲ以テ其ノ賃賃價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業
者ノ家族ヲ除ク

第二十條 營業稅ハ年額ヲ二分シ其ノ年五月、十一月ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキハ未
納ノ税金ハ即納トス

第二十一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其ノ營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲クル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營所稅ヲ徵收セス但シ此ノ
稅法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準
據スルコトヲ得

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繫場業、鐵
道業

第二十二條 同一ノ場所ニ於テハ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條 營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

第二十五條 第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期間内ニアルトキハ其ノ期間ハ後ノ營業者ニ及フモノトス

第二十六條 政府ニ於テ課稅標準ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第二十七條 前條ノ算定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十八條ノ一 前條ノ請求アリタルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス

第二十八條ノ二 各稅務管理局所轄内ニ營業稅審査委員會ヲ置ク
審査委員ノ定款及審査委員會ノ會議ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
審査委員ハ商業會議所代表者及納稅義務ヲ有スル營業者中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス

第二十八條ノ三 收稅官吏ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十八條ノ四 營業者第二十八條ノ一ノ決議ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其ノ理由ヲ申立ツルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル資本金額、賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額又ハ建物賃賃價格半額以上ヲ減シタルトキ

二 課稅ノ標準シタル從業者ノ人員届出人員二分ノ一以下ニ減シタルトキ

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ翌年一月迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條 政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ查覈シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ稅金ヲ減額スルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額ハ前々年中ノ總額資本金額、建物賃賃價格ハ前々年中ノ平均額ノ半額ニ達セザルトキ

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員其ノ最多數ノトキニ於テ届出人員ノ二分ノ一ニ達セザルトキ

課税標準ノ課税最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其ノ割合ヲ以テ税金ヲ徴收ス

第三十二條 第一條ニ掲クル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上、受入、貸付、廻送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條 收税官吏ハ營業ニ關スル帳簿、物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ尋問スルコトヲ得

第三十四條 第十三條ノ届出ヲ爲サス若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス其ノ脱税シタル者ハ脱税金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用フ

第三十六條 府縣ハ此ノ税法ニ依リ納税義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本税十分ノ二以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得此ノ附加税ノ外府縣税又ハ地方税ヲ課スルコトヲ得ス

附則

第三十七條 此ノ税法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第三十八條 明治二十九年九月ニ屬スル府縣税又ハ地方税ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ限ニ在ラス

明治二十九年九月ニ屬スル府縣税又ハ地方税ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此ノ税法ノ營業税ハ明治三十年ニ限り年額四分ノ三ヲ徴收ス

第三十九條 第二十條五月ノ納期ハ明治三十年ニ限り七月トス

第四十條 第十五條第二項但書ノ規定ハ此ノ法律施行地ト此ノ法律ヲ施行セサル地トニ涉リ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アル場合ニ之ヲ準用ス

第二節 營業税法施行規則

營業税法施行規則(明治二十九年七月勅令第二百六十九號 同三十二年勅令第九十九號マテ二次改正)

第一條 營業税法第一條ノ營業ヲ爲ス者ニシテ同法第二條以下ノ規程ニ依リ營業税ヲ課セラ
ルヘキ者ハ其ノ店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ稅務署ニ同法第十三條ノ届出ヲ爲スヘシ但シ
同法第十五條第二項末段ノ場合ニ於テハ其ノ主タル店舗其ノ他ノ營業所在地ノ稅務署ニ届
出ヘシ
左ニ掲クル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後十日以内ニ稅務署ニ新規開業ノ届出
ヲ爲スヘシ

一 新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者

二 同法第十五條第二項末段ノ場合ニ該當セサル者ニシテ新ニ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設スル者

三 新ニ營業ノ種類ヲ増加スル者

第二條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類竝ニ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業税法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ但課稅標準トナルヘキモノヲ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ稅率ノ最重キ營業、稅率等シキトキハ其ノ重ナル營業ノ一方ニ其ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第三條 同一人ニシテ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業税法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第四條 營業税法第十五條第二項末段ニ依リ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ合セテ營業稅ヲ課セラルヘキ場合ニ於テハ總テノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第五條 株式會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス但シ保險會社ニ於ケル保險責任準備金ハ之ヲ除算ス

第六條ノ一 合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第六條ノ二 株式合資會社ニ於テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル出資金額、拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條ノ一 合名會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條ノ二 株式會社、合資會社、株式合資會社又ハ合名會社ニ於テ營業税法第一條ニ掲ケル營業ト同條ニ掲ケサル營業トヲ兼營スルトキハ前四條ニ依リ算定シタル資本金額中ヨリ營業税法第一條ニ掲ケサル營業ニ對スル見積資本金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額トス

第八條 一箇人ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トヲ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、建物、築造物、船舶、諸器具、器械ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ時價相當ノ見積金額ニ依ル

第九條 課税標準額ヲ豫算スルトキハ届出當時ノ實況ニ依リ尙ホ過去將來ノ形情ヲ斟酌シテ之ヲ算出スヘシ

第十條 (削除)

第十一條 營業税法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラサル物品ヲ以テスルトキハ其ノ物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其ノ土地ハ營業税法第十八條第二項ニ依リ其ノ賃賃價格ヲ計算スヘシ

營業者借家中ニ於テ其ノ建物ノ一部分ヲ所有スルトキハ自己所有ノ部分ハ營業税法第十八條第三項ニ依リ其ノ建物賃賃價格ヲ計算スヘシ建物中雜作全部ヲ借主ニ於テ所有スルトキ亦同シ

第十二條 從業者ハ營業主ヲ始メ店舗其ノ他ノ營業場ニ居住スルト否ト使役ノ常時タルト臨時タルトヲ問ハス總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算スヘシ但シ營業主ト同一戸籍内ニ在ル者ハ計算セス

第十三條 相續讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ其ノ繼續後十日以内ニ稅務署ニ其旨ヲ届出ヘシ

第十四條 營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以内ニ稅務署ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

其ノ移轉他ノ管轄地方ニ涉ルトキハ移轉先ノ稅務署ニ届出ヘシ

第十五條 營業税法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニシテ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設シタル者ハ其ノ増設後十日以内ニ其ノ旨ヲ稅務署ニ届出ヘシ

第十六條 納稅義務アル營業者第一條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ届出タル課税標準ヲ不相當ト認ムルトキハ稅務署長ハ營業税法第十六條ノ算定方法ニ依リ其ノ課税標準ヲ算定スヘシ

第十七條 稅務署長前條ニ依リ課税標準ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル營業者ハ稅務署ニ申出テ其ノ算定ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 前條ノ算定ニ對シ異議アル者審査ヲ求メントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ營業税法第二十七條ノ期限内ニ稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ申出ヘシ

第十九條 稅務監督局長課税標準審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經

ヲ課税標準ヲ決定シ之ヲ營業者ニ通知スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ第十七條第二項ヲ準用ス

第二十條 審査委員ノ定數ハ五人トス

第二十一條 審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十二條 審査委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉ス

第二十三條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理ス
ヘシ

第二十四條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得
ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十五條 審査委員ハ自己又ハ自己カ代表スル會社ノ課税標準ニ關スル議事ニ與ルコトヲ
得ス

第二十六條 營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申出アリタルトキハ稅務署ハ課税標準額算定
ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スル
トキハ其ノ課税標準額ノ全部ヲ改算スヘシ

第二十七條 營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ不在ナ
ルトキハ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ稅務署ニ届出ヘシ

第二十八條 營業稅法第三十三條ニ依リ收稅官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査スルトキハ稅
務署ノ検査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

附則

第二十九條 營業稅法第二十一條第二項但書ニ該當スル營業者ハ同法第十三條ノ届書ニ要ス
ル事項ヲ詳記シタル書類ヲ添へ明治三十年一月三十一日迄ニ地方長官ニ其開業年月日ヲ届
出ヘシ

第三節 業名及課税標準届様式

大藏省令第十八號(明治二十九年
十月)

明治二十九年法律第三十三號營業稅法ニ關スル業名及課税標準届書ハ左ノ様式ニ準シテ調製
シ所轄稅務署ニ差出スヘシ但シ北海道ハ明治三十年三月三十一日マテハ所轄區役所ニ差出ス
ヘシ

課税標準中資本金額、建物賃賃價格及從業者ハ各其ノ計算ヲ明カニスル爲メ計算ノ基ク處及

營業税法施行規則第二條但書ニ關スル計算上ノ要件ヲ詳記シタル明細書ヲ届書ニ添附スヘシ
但シ課税標準額ヲ豫算スル場合ニ於テハ賣上金、請負金及報價金ト雖モ仍本項ニ準據スヘシ

明治何年營業名及課税標準届

營業場

北海道何府(縣)何郡(市)(區)

何町(村)大字何番地商號

一何々業

何々商(何々製造)

一賣上金額 卸賣何程小賣何程

一資本金額 何程

一請負金額 何程

一報價金額 何程

一建物賃賃價格 何程

一從業者

何人(内職工何人勞役者何人)職工勞役者ヲ課税ノ要件トナスモノ

ニ限ル)

何年何月何月開業(營業税法第十三條第一項但書ニ該當スル者ニ限ル)

右之通ニ候也

住所(會社ノ位置)

年月日

氏名印

(何々會社代表者氏名印)

北海道廳長官氏名 宛

某地稅務監督局長氏名宛

備考

一 營業税法第一條ノ營業種類及營業稅ヲ課セラルヘキ店舗其ノ他ノ營業場毎ニ各別紙ニ記載スヘシ但シ一稅務署所轄内(北海道ハ明治三十年三月三十一日マテハ郡區役所所轄内)ニ於テ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ同種ノ營業ヲ爲ス者ハ其ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ區分シテ業名及課税標準ヲ記載スルモ妨ケナシ

二 一稅務署所轄内(北海道ハ明治三十年三月三十一日マテハ郡區役所所轄内)ニ於テ數種ノ營業ヲ爲ス者ハ各届書中營業名掲記ノ下ニ其兼業名ヲ記載スヘシ

三 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始シタル者ハ開業年月日ノ下ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第四章 所得稅

第一節 所得稅法

所得稅法(明治三十二年二月法律第十七號
同三十八年第三四號第二次改正)

第一條 帝國內此ノ法律施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上居所ヲ有スル者ハ此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ニ該當セサル者此ノ法律施行地ニ資産又ハ營業ヲ有シ若ハ公債社債ノ利子支拂ヲ受クルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條 所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 第一種 法人ノ所得 千分ノ二十五
- 第二種 此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子 千分ノ二十
- 第三種 前各種ニ屬セサル所得
 - 拾萬圓以上 千分ノ五十五
 - 五萬圓以上 千分ノ五十

- 參萬圓以上 千分ノ四十五
- 貳萬圓以上 千分ノ四十
- 壹萬五千圓以上 千分ノ三十五
- 壹萬圓以上 千分ノ三十
- 五千圓以上 千分ノ二十五
- 參千圓以上 千分ノ二十
- 貳千圓以上 千分ノ十七
- 千圓以上 千分ノ十五
- 五百圓以上 千分ノ十二
- 參百圓以上 千分ノ十

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ第三種ニ限リ之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

第四條 所得ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス

一 第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金、前年度繰越金及保險責任準備金ヲ控除シタルモノニ依ル但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資

産又ハ營業ヨリ生スル各事業年度ノ益金ヨリ同年度損金ヲ控除シタルモノニ依ル

二 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

三 第三種ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ依ル但シ此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル公債社債ノ利子、營業ニ非サル貸金、預金ノ利子、此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ヨリ受ケタル配當金、俸給、給料、手當金、歳費、年金、恩給金ハ其ノ收入額ノ豫算年額ニ依リ山林ノ所得ハ前年ノ所得ニ依リ田畑ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ

前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス

第五條 左ニ掲クル所得ニハ所得稅ヲ課セス

- 一 軍人從軍中ニ係ル俸給
- 二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給
- 三 旅費學資金及法定扶養料
- 四 營利ヲ目的トセサル法人ノ所得
- 五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六 外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資産營業又ハ職業ニ依ル所得但シ此ノ法律施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク

七 此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及割賦賞與金

第六條 第三種ノ所得ハ三百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス但シ第三條第二項ノ場合ニ於テ其ノ合算額參百圓ニ滿ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 納稅義務アル法人ハ各事業年度毎ニ損益計算書ヲ政府ニ提出スヘシ但シ第二條ニ該當スル法人ハ各事業年度毎ニ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シ其ノ計算書ヲ政府ニ提出スヘシ

第八條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第九條 第一種ノ所得金額ハ損益計算書ヲ調査シ政府之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス

調査委員會閉會後第三種ノ所得アル者新ニ納稅義務アルコトヲ申出タルトキハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス

第十條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ノ所得金

額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付ス

第十一條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道ノ區ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ調査委員會ヲ置クコトヲ得
調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 調査委員ハ調査委員選舉人之ヲ選舉ス

第十三條 調査委員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ調査委員選舉人ノ選舉區域ハ市町村及北海道ノ區ノ區域ニ依ル但シ東京市京都市及大阪市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

第十四條 選舉區域内ニ住居シ前年所得稅ヲ納メタル者ニシテ第八條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セラル、コトヲ得但シ左ニ記載スル者ハ此ノ限ニ在ラス
一 無能力者
二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者

四 剝奪公權者停止公權者

五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ルマテノ者

六 第四十六條ニ依リ處罰セラレタル後五箇年ヲ經サル者

第十五條 調査委員選舉人ノ定數ハ其ノ選舉區域内ニ於ケル前年所得稅ヲ納メタル者ニシテ

第八條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス

第十六條 調査委員選舉人ノ選舉事務ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ執行シ調査委員ノ選舉事務ハ稅務署長之ヲ執行ス

第十七條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第十八條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

選舉人ハ自ら投票所ニ到リ投票スヘシ但シ郵便ヲ以テ投票ヲ送付スルコトヲ得

郵便ヲ以テ投票ヲ送付スル場合ニ於テ投票時間ノ終了スルマテニ到達セザリシ投票ハ無効トス

第十九條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十一條 稅務署長ハ選舉期日ヲ定メ少クトモ七日前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補闕員ノ選舉ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選舉ニ關シテハ第十八條及第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十三條 調査委員及補闕員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十四條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ其ノ半數ヲ改選ス但シ第一回ノ改選期ニ於テハ抽籤ヲ以テ其ノ退任者ヲ定ム

補闕員ハ二年毎ニ之ヲ改選ス

調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ數最モ多キ補闕員ヨリ順次之ヲ補充ス但シ投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

補闕員ヨリ調査委員トナリタル者ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

調査委員ノ定數ヲ増加シタル場合ニ於テ新ニ選舉セラルヘキ調査委員ノ任期ヲ定ムル必要アルトキハ稅務署長之ヲ定メ選舉期日ト共ニ之ヲ公示ス

調査委員ノ定數ヲ減少シタル場合ニ於テ退任者ヲ定ムル必要アルトキ又ハ前項ニ依リ調査委員ヲ増加シタル場合ニ於テ各調査委員ノ任期ヲ定ムル必要アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十七條 調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十八條 調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 調査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第三十條 八月三十日マテニ調査委員會成立セサルトキハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス

調査委員會開會ノ日ヨリ第二十五條ノ期間以内ニ又ハ八月三十日マテニ調査結了セサルトキハ所得金額調査未済ノモノニ限り政府其ノ所得金額ヲ決定ス

第三十一條 政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再ヒ調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタル日ヨリ七日以内ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第三十二條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十三條 調査委員ニハ日當及旅費ヲ支給ス

第三十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第三十四條ノ二 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價額又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第三十五條 政府ハ第一種及第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知ス

第三十六條 納稅義務者政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ審査ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條 前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ政府之ヲ決定ス

審査委員會ハ收稅官吏二人調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス
審査委員會ノ所屬區域ハ敕令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員會ハ前條ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得
第三十一條ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス

第三十八條 納稅義務者ハ第三十六條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖モ通知ヲ受ケタル所得金額ニ依リ税金ヲ納ムヘシ

第三十九條 所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第四十條 山林ノ所得ヲ除クノ外第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過クルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス

所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ヲ適用セス

第四十一條 前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ所得金額ヲ査覈シ決定額ニ對シ四分ノ一

以上ノ減損アリタルトキハ所得金額ヲ更訂ス

第四十二條 第一種ノ所得ニ付テハ各事業年度毎ニ所得税ヲ徴收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得税ヲ徴收シ其ノ都度之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得税ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徴收ス但シ納税者納税管理人ヲ定メスシテ帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ際直ニ其ノ所得税ヲ徴收スルトヲ得

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第四十三條ノ一 第四十條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ確定ニ至ルマテ税金ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十三條ノ二 第三種ノ所得ニ付二箇以上ノ稅務署管内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納税者ノ住所地若ハ住所ナキトキハ居所地以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消ス

スヘシ

第四十四條 第三種ノ所得ニ係ル所得税ハ本人住所ノ地ヲ以テ納税地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納税地トス但シ住所以外ニ在ル納税者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得税ヲ納ムルコトヲ得

此ノ法律施行地ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納税地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納税地ヲ指定ス

第四十五條 納税義務者納税地ニ現在セサルトキハ其ノ所得税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第四十六條 所得金額ヲ隱蔽シテ逋税シタル者ハ其ノ逋税金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其ノ税金ヲ追徴シ其ノ罪ヲ問ハス

第四十七條 所得ノ調査又ハ審査ニ關與スル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フモノトス

附則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十二年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

第四十九條 明治二十年敕令第五號所得稅法ハ明治三十一年分所得稅限リ廢止ス
第五十條 此ノ法律ハ沖繩縣小笠原島及伊豆七島ニ當分之ヲ施行セス

第二節 所得稅法施行規則

所得稅法施行規則(明治三十二年勅令第七十八號 同三十八年勅令五五號迄二次改)

第一條 所得稅法第四條第一項第三號ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキモノハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費、其ノ借入料、場所、物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他其ノ收入ヲ得ルニ必要ナル經費ニ限ル但シ家事上ノ費用及之ト關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第二條 第三種ノ所得金額ハ申告、調査又ハ決定當時ノ現況ニ依リ所得稅法第五條ノ所得ヲ除キ之ヲ算出スヘシ

第三條 納稅義務アル法人ハ每事業年度通常總會後七日以内ニ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類及金額ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ
所得稅法第三條第二項ニ依リ同居者ノ所得ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ其ノ所得ヲ區分シ同

時ニ之ヲ申告スヘシ

第四條ノ二 所得稅法第一條但書ニ依リ特ニ所得調査委員會ヲ置クヘキ市又ハ北海道ノ區ハ大藏大臣之ヲ指定ス

第五條 所得調査委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第六條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉前選舉資格ヲ有スル者ノ住所氏名ヲ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

第七條 調査委員選舉人ノ選舉ヲ執行スルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ其ノ選舉資格ヲ有スル者二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第七條ノ二 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ當選人ノ氏名ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第七條ノ三 稅務署長所得稅法第二十一條ニ依リ調査委員選舉ノ期日ヲ公示シタルトキハ同時ニ之ヲ調査委員選舉人ニ通知スヘシ

第八條 調査委員ノ選舉ヲ執行スルトキハ稅務署長ハ調査委員選舉人二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第九條 調査委員選舉人及調査委員ノ選舉ニ於テ投票ニ記載シタル人員其ノ選舉スヘキ定數ニ超エタルトキハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次棄却スヘシ

第十條 調査委員又ハ補闕員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ稅務署長ニ於テ已ムヲ得スト認ムヘキ事故アル者ニ限ル

第十一條 調査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル調査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十一條ノ二 調査委員會ノ開會日數ハ各調査委員會ノ區域内ニ於ケル前年所得稅納稅者ノ數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム

五千人以上ナルトキ 三十日以内

三千人以上ナルトキ 二十五日以内

千人以上ナルトキ 二十日以内

五百人以上ナルトキ 十五日以内

五百人未滿ナルトキ 十日以内

第十二條 調査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第十三條 稅務署長ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅

義務者ニ通知スヘシ

第十四條 所得稅法第三十六條ニ依リ審査ヲ求メムトスル者ハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第十五條 各稅務監督局所轄内ニ審査委員會ヲ置ク

第十六條 收稅官吏ヲ以テスヘキ審査委員ハ大藏大臣之ヲ命シ調査委員ヲ以テスヘキ審査委員ハ稅務監督局所轄内ノ調査委員之ヲ選舉ス

第十七條 審査委員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス

第十八條 審査委員ノ選舉ヲ執行セムトスルトキハ稅務監督局長選舉期日ヲ定メ所轄内調査委員ノ氏名ト共ニ之ヲ各調査委員ニ通知スヘシ

第十九條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ稅務管理局ニ差出スヘシ

第二十條 稅務監督局長ハ所轄内調査委員二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第二十一條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條ノ一 審査委員ノ選舉終了シタルトキハ稅務監督局長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

シ

第二十二條ノ二 審査委員ハ稅務監督局所轄内ニ於テ調査委員ノ改選アル毎ニ之ヲ改選ス

第二十三條 審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十四條 審査委員會ハ改選後第一回開會ノ初ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十五條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得

ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十六條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理ス

ヘシ

第二十七條 審査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十八條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十九條 審査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務監督局長ニ通知スヘシ

第三十條 稅務監督局長ハ所得稅法第三十七條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通

知スヘシ

第三十一條 納稅義務アル法人損益計算書ヲ提出セサルトキハ政府其ノ損益ヲ調査シ其ノ所

得金額ヲ定ム

第三十二條 所得稅ハ所得稅法第九條、第三十條、第三十一條ニ依ル決定金額ニ依リ之ヲ徵收

ス

前項ノ決定金額ハ所得稅法第三十七條、第三十九條、第四十一條ノ結果ニ依ルノ外之ヲ變更

セス

第三十三條 所得稅法第三條第二項ノ場合ニ於テ同居者所得金額決定後別居スルモ所得金額

決定當時ノ稅率ニ依リ其ノ年ノ所得稅ヲ納ムヘシ

第三十四條 公ニ募集シタル公債社債ノ利子ヲ支拂フ者ハ支拂ノ際所得稅金額ヲ控除スヘシ

第三十五條 營利ヲ目的トセサル法人ニシテ無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ取得シタルトキ

ハ其ノ發行者又ハ讓渡人ノ證明ヲ得テ之ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知シ其ノ所有ヲ證明スヘ

シ但シ從來無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ所有スル者ハ本令施行ノ際利子支拂ノ取扱所ニ

通知シ便宜ノ方法ニ依リ其ノ所有ヲ證明スヘシ

第三十六條 府縣郡市區町村其ノ他公共ノ團體若ハ組合又ハ會社ニ於テ公債社債ノ利子ニ付

所得稅ヲ徵收シタルトキハ直チニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ其ノ所在地ノ金庫ニ拂込ムヘ

シ

國債利子支拂ノ取扱銀行ニ於テ國債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ大藏大臣ノ命令ニ依リ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十七條 所得稅法第四十條ノ申出アリタルトキハ稅務署長ハ其ノ年所得ノ實況ヲ調査シ所得金額四分ノ一以上ノ減損アリタルトキハ所得金額ヲ更訂シテ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十八條 稅金ノ一部ヲ納付シタル後所得金額ノ變更ニ因リ所得稅金額ヲ減シタル場合ニ於テ既納ノ稅金カ變更シタル所得稅金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ還付シ、不足スルトキハ其ノ不足額ヲ後納期ニ平分シテ徵收ス

第三十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者納稅地ノ稅務署管轄以外ニ於テ所得ヲ取得スルトキハ納稅地ヲ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第四十條 納稅義務者住所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納ムトスルトキ又ハ所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅地ヲ定メ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第四十一條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ新轄稅務署ニ申告スヘシ

第四十二條 納稅義務者帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ旨稅務署ニ申告スヘシ

第四十三條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

務署ニ申告スヘシ

第五章 印紙稅

第一節 印紙稅法

印紙稅法(明治三十二年三月法律第五十四號
同三十四年法律第一六號ヲ以テ改正)

第一條 財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限り記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五拾圓トナルトキハ五拾圓ニ止メ壹錢未満トナリ又ハ壹錢未満ノ端數ヲ生スルトキハ壹錢ニ切上クルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價格ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條 (削除)

第四條 左ニ掲クル證書帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シテ

ニ定ムル所ノ印紙税ヲ納ムヘシ

- 一委任狀 印紙税壹錢
- 一爲替手形 印紙税貳錢
- 一約束手形 印紙税貳錢
- 一銀行預金證書 印紙税貳錢
- 一船荷證券 印紙税貳錢
- 一運送貨物引換證 印紙税貳錢
- 一倉荷預證券 印紙税貳錢
- 一倉荷質入證券 印紙税貳錢
- 一保險證券 印紙税貳錢
- 一株券 印紙税貳錢
- 一債券 印紙税貳錢
- 一株式申込證 印紙税貳錢
- 一地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書 印紙税貳錢
- 一使用貸借、質貸借、雇傭、寄託定期金ニ關

スル契約證書

- 一定款及組合契約書 印紙税貳錢
- 一權利ノ變更ニ關スル證書 印紙税貳錢
- 一追認、承認ニ關スル證書 印紙税貳錢
- 一物品切手 印紙税貳錢
- 一賣買仕切書 印紙税貳錢
- 一送狀 印紙税貳錢
- 一受取書 印紙税貳錢
- 一金高記載ナキ證書 印紙税貳錢
- 一擔保品差入證書、擔保品預證書 印紙税貳錢
- 一通帳 印紙税貳錢
- 一判取帳 印紙税貳拾錢

第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス

一官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿

一官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿

- 一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
- 一 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書
- 一 俸給、給料、歳費手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書
- 一 小切手
- 一 金高五圓未満ノ爲替手形、約束手形
- 一 營業ニ關セサル受取書
- 一 金高五圓未満若ハ金高記載ナキ送狀、受取書又ハ賣買仕切書
- 一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
- 一 證書ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
- 一 株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載
- 一 手形ノ引受、保證
- 一 手形及證券ノ拒絶證書
- 一 手形及證券ノ複本、謄本

第六條 印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金

ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル

印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作

成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者

ハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス

第十二條 第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ貳拾圓以上ノ罰金ニ處ス

第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

附 則

第十五條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自
用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記
載ノ税金高以上ニ之ヲ使用セシムルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

第二節 税印押捺ニ關スル件

第一 證書ニ税印ノ押捺請求方

大藏省令第五號(明治三十二年三月、同三七
年同省令第二三號ニテ改正)

印紙稅法第六條ニ依リ證書ニ税印ノ押捺ヲ求メムトスル者ハ適宜ノ稅務署ニ申出税金ヲ納付
シ其ノ領收書又ハ稅務署ノ納稅濟證明書ヲ添ヘ用紙ト共ニ請求書ヲ大藏省ニ提出スヘシ
税印押捺請求者ハ口頭ヲ以テ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得
税印押捺請求者用紙返送ニ要スル郵便料金ニ相當スル郵便切手ヲ併セ提出スルトキハ稅務監
督局又ハ税印押捺ノ上郵便ヲ以テ用紙ノ返送ヲ爲スヘシ

第二 税印押捺請氷書ニ證書用紙ノ價格記載ノ件

大藏省告示第二十一號(明治三十四年
五月)

明治三十二年省令第五號ニ據リ提出スル税印押捺請求書ニハ其證書用紙ノ價格ヲ記載スヘシ

第三節 收入印紙

第一 收入印紙ニ關スル件

勅令第四百四十號(明治三十一年
七月)

證券印紙、煙草印紙、訴訟用印紙、賣藥印紙、登記印紙ヲ貼用スヘキ場合ニハ自今一樣ノ收入印
紙ヲ用ウヘシ其ノ形式ハ大藏大臣之ヲ定ム但シ從來ノ證券印紙、煙草印紙、訴訟用印紙、賣藥
印紙、登記印紙ハ當分ノ内收入印紙ニ代ヘ使用スルコトヲ得

第二 收入印紙形式

大藏省令第十二號(明治三十一年
七月)

明治三十一年敕令第四百四十號ニ依ル收入印紙ノ形式左ノ通相定ム

(雛形ハ之ヲ略ス)

壹厘 萌黃色

貳厘 橙黃色

參厘	濃青色
五厘	赫色
壹錢	淡青色
貳錢	綠色
五錢	紫色
拾錢	紅色
五拾錢	上模様 地紋 綠 淡紅色
壹圓	上模様 地紋 青 黃色
五圓	上模様 地紋 紅 青色
拾圓	橙黃色
五拾圓	青色
百圓	紫色

第三 收入印紙ヲ以テ手数料、罰金、科料、過料、

刑事追徴金、訴訟費用及非訟事件費用ヲ

納メシムルコトヲ得ルノ件

勅令第二百二十七號(明治三十八年一月)

政府ニ納ムヘキ手数料、罰金、科料、過料、刑事追徴金、訴訟費用及非訟事件ノ費用ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得但シ收入印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得ヘキ手数料ノ種目ハ主務大臣之ヲ定ム

附則

明治二十四年勅令第二百四十五號ハ之ヲ廢止ス

第四 收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目

大藏省令第五號(明治三十八年十一月、同三十九年五月同省令第五號ヲ以テ追加)

本年勅令第二百二十七號ニ依リ收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目左ノ如シ

- 一 賣藥營業鑑札料及再渡手数料
- 二 土地臺帳謄本手数料

- 三 文官試験手数料
- 四 國債及大藏省證券ニ關スル手数料
- 五 (削除)
- 六 (削除)

第五 收入印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムル時印紙貼付方

大藏省令第五十一號(明治三十八年十一月)

本年勅令第二百二十七號ニ依リ收入印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルトキハ其金額ニ相當スル印紙ヲ願書其他ノ書類ニ貼付スヘシ

第七編 通信

第一章 郵便

第一節 郵便法及郵便規則

第一款 郵便法

郵便法(明治三十三年三月法律第五十四號)

- 第一條 郵便ハ政府之ヲ管掌ス
- 第二條 何人ト雖信書ノ送達ヲ營業ト爲スコトヲ得ス
運送營業者及其ノ使用人ハ其ノ運送方法ニ依リ他人ノ爲ニ信書ノ送達ヲ爲スコトヲ得ス但シ貨物ニ添附スル無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラヌ
- 第三條 運送營業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ運送方法ニ依リ郵便物ノ運送ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ相當ノ運送料金ヲ支給ス
- 第四條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ墻壁又ハ柵欄ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ

郵便官署ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第五條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ郵便遞送人郵便集配人又ハ郵便吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ助方者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第六條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第七條 郵便専用ノ物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

郵便専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ郵便物及其ノ取扱ニ必要ナル物件ハ海損ヲ分擔セス

第八條 郵便官署ハ郵便物ノ遞送中又ハ其ノ發送ノ準備完了ノ後ニ限リ其ノ差押ヲ拒ムコトヲ得

第九條 郵便物検査ヲ受クヘキ場合ニ於テハ他ノ物件ニ先チテ直ニ検査ヲ受ク

第十條 郵便取扱ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十一條 郵便官署ハ郵便物又郵便ニ依ル取立金ノ受取人ノ眞偽ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十三條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ差出人ノ請求ニ因リ之ヲ還付スルコトヲ得

第十四條 宛所ニ配達シ又ハ受取人ニ交付スルコト能ハサル郵便物ハ差出人ニ還付ス其ノ差出人ニ還付スルコト能ハサルモノハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ於テ之ヲ開披スルコトヲ得

第十五條 前條ニ依リ開披シタル郵便物ニシテ尙配達還付ヲ爲スコト能ハサルモノ及郵便ニ依ル取立金ニシテ拂渡ヲ爲スコト能ハサルモノハ之ヲ公示ス

郵便物ニ封入シタル物件ニシテ有價物ニ非サルモノハ其ノ公示ノ日ヨリ六箇月内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキハ之ヲ棄却シ其ノ有價物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ其ノ保管ニ過分ノ費用ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ賣却シ其ノ代金ヲ保管ス但賣却ニ要スル經費ハ直ニ賣却代金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

有價物賣却代金及郵便ニ依ル取立金ハ公示ノ日ヨリ二箇年間交付ヲ請求スル者ナルトキハ國庫ノ所有ニ歸ス

第十六條 郵便官署ハ郵便物ニ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シテ差出シタル物件アリト認ムルトキハ差出人ニ其開示ヲ求ムルコトヲ得

差出人其ノ開示ヲ拒ミタルトキハ其ノ取扱ヲ拒絕ス

第十七條 郵便物ハ通常郵便物及小包郵便物トス

第十八條 通常郵便物ノ種類及料金ハ左ノ如シ

第一種 書狀 重量四匁又ハ其端數毎ニ 金參錢

第二種 郵便葉書 一 通常葉書 金壹錢五厘
二 往復葉書 金參錢
三 封緘葉書 金參錢

第三種 每月一回以上刊行スル定期刊行物 一 一號一箇重量二十匁又ハ其端數毎ニ 金五厘
二 二號又ハ二箇以上一束重量二十匁又ハ其端數毎ニ 金壹錢

第四種 書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、畫、圖、商品見本及雛形、博物學上ノ標本 重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ 金貳錢

第五種 農産物種子 重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ 金壹錢

前項各種ニ該當セサル物件及該當スルモ封緘シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

ス

異種ノ郵便物ヲ合裝シタルモノハ其ノ種類中ノ最高料金ヲ納付スヘキ郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

郵便葉書ノ表而又ハ第三種乃至第五種ノ郵便物ニ通信文ヲ記載シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十九條 小包郵便物ノ料金並郵便物ノ特殊取扱ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二十條 書狀ハ小包郵便物ト爲シ又ハ小包郵便物ニ合裝スルコトヲ得ス但シ無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ主務官署ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル

第二十二條 郵便禁制品ノ種類及郵便物ノ容積、重量、包裝等ニ關スル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二十三條 受取人ハ郵便料ヲ完納シタル郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

差出人ハ還付郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 郵便ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セ

ス

第二十五條 命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便料未納又ハ不足ノ郵便物ハ受取人其ノ不納額ニ倍ノ料金ヲ納付シテ之ヲ受取ルコトヲ得其ノ納付ヲ拒ミタルトキハ差出人ニ還付シ差出人ヨリ之ヲ徴收ス

第二十六條 郵便ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス

第二十七條 郵便ニ關スル料金ノ不納金額ハ郵便官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收ス

前項ノ不納金額ニ付郵便官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十八條 郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ノ事務ニ關スル郵便物ハ無料ト爲スコトヲ得

第二十九條 郵便ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ以テ納付スヘシ

第三十條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ政府之ヲ發行ス

第三十一條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ汚損毀損シタルモノハ其ノ效用ヲ

失フ

第三十二條 成規ノ手續ヲ經テ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ヲ交付シタルトキハ正常ノ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 成規ニ依リ差出シタル郵便物ノ取扱ニ關シ郵便官署ハ左ノ場合ニ限り其ノ損害ヲ賠償ス

- 一 書留郵便物ヲ亡失シタルトキ
 - 二 小包郵便物若ハ價格表記郵便物ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ
 - 三 郵便ニ依ル取立金ノ證券ヲ亡失シ又ハ其ノ效力ヲ失ハシメタルトキ
- 賠償金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十四條 郵便物交付ノ際外部ニ破損ノ痕跡ナク且重量ニ變易ナキトキハ損害ナキモノト看做ス

第三十五條 第三十條ノ場合ト雖左ノ事項ニ該當スルトキハ損害賠償ノ限ニ在ラス

- 一 差出人又ハ受取人ノ過失ニ因リタルトキ
- 二 不可抗力ニ因リタルトキ
- 三 其ノ郵便物ノ性質又ハ瑕疵ニ因リタルトキ

第二十六條 郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ郵便物ニ損害アリト認ムルトキハ其ノ受取ヲ拒ムコトヲ得但シ郵便物受取ノ後ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十七條 第三十三條ニ依ル損害賠償ハ差出人又ハ其ノ承諾ヲ得タル受取人之ヲ請求スルコトヲ得

第三十八條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ對シ左ノ期間内之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 第四條ニ依ル賠償及第五條ニ依ル報酬ハ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月

二 第三十三條ニ依ル賠償ハ郵便物差出ノ日ヨリ二箇年

第三十九條 郵便官署ノ損害賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十條 郵便官署ニ於テ損害賠償ヲ爲シタル後其ノ郵便物ヲ發見シタルトキハ之ヲ其ノ賠償受領者ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ賠償受領者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以上ニ賠償金ノ全部又ハ一部ヲ返付シテ其ノ郵便物ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條 第二條ニ違反シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ場合ニ於テ收得シタル金銀物品ハ之ヲ沒收シ既ニ消費又ハ讓渡シタルモノハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第四十二條 第三條ニ違反シタル者ハ拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第四條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第五條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第六條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ事由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミ又ハ第二十三條ニ違反シテ郵便物ノ受取ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第四十四條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第四十五條 第二十條ニ違反シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 郵便禁制品ヲ郵便トシテ差出シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ物件ヲ沒收ス

第四十七條 不正ノ手段ヲ以テ郵便ニ關スル料金を免レ又ハ免レントシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第四十八條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ偽造變造シ又ハ其ノ情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ之ヲ沒收ス

第四十九條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ再ヒ使用シタル者ハ貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ニ使用シタル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ剝脱切取シタルトキハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第五十一條 郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取シタルトキハ刑法竊盜ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第五十二條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ拋棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知テ之ヲ受取リタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第五十三條 正當ノ事由ナクシテ郵便物ノ取扱ヲ拒絕シ若ハ其ノ送達ヲ遲延セシメタル者又ハ重大ナル過失ニ因リ郵便物ヲ失ヒタル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 郵便専用ノ物件其ノ他現ニ郵便ノ供用ニスル物件ヲ破壞損傷シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十五條 第四十七條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第五十六條 郵便物ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附則

第五十七條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便條例中第十二章及第二百四十二條以外ノ條項小包郵便法及郵便聯合國郵便切手類保護法ハ之ヲ廢止ス

第五十八條 本法施行前ニ差出シタル郵便物ニ關シテハ郵便條例及小包郵便法ヲ適用ス

第二款 郵便規則

郵便規則 (明治三十三年九月逓信省令第百四十二號)
(同三十七年同省令第七十號マテ數次改正)

第一章 郵便物ノ種別

第一節 總則

第一條 左記ノ物件ヲ郵便禁制品トス

- 一 公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スヘキ文書、圖畫、其ノ他ノ物件
- 二 爆發性、發火性又ハ危險性ノ物件其ノ他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件

第二條 通貨、金銀、寶石、珠玉其ノ他高價ノ物件ハ價格表記ト爲スニ在ラサレハ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得ス

第三條 通常郵便物ノ容積ハ其ノ長一尺三寸幅八寸五分厚五寸ヲ限トシ其ノ重量ハ第三種乃至第五種郵便物ニ在リテハ三百匁商品見本及雛形ニ在リテハ百匁ヲ超過スヘカラス
小包郵便物ノ容積ハ其ノ長幅及厚各二尺ヲ限トシ其ノ幅及厚各五寸以内ノモノハ長三尺限トシ其ノ重量ハ一貫五百匁ヲ超過スヘカラス

第四條 郵便物ノ容積及重量ノ制限ヲ超過シ其ノ他成規ニ違反シテ差出シタル郵便物ハ特ニ

規定シタル場合ノ外之ヲ差出人ニ還付ス若其ノ郵便料未納又ハ不足ナルトキハ其ノ不納額ノ二倍ヲ徴收ス

第五條 無料郵便物ハ郵便法第二十八條ニ掲クル區別ニ從ヒ其ノ關係事務ノ名稱ヲ表面ニ記載スヘシ

無料郵便物ノ差出人又ハ受取人カ官署若ハ官吏ナルトキハ其ノ官署名若ハ官職氏名私人ナルトキハ其宿所氏名ヲ外部ニ明記スヘシ

前二項ノ規定ニ反スル郵便物ハ有料郵便物トシテ取扱フ

第六條 無料ノ性質ヲ有セサルモノヲ無料郵便物トシテ差出シタルトキハ差出人ニ還付シ未納額ノ二倍ヲ徴收ス

無料郵便物ニ無料ノ性質ヲ有セサル音信文ヲ記載シ又ハ有料郵便物ヲ附添シタルモノ亦同シ

第七條 郵便ニ關スル料金ノ未納又ハ不足カ郵便局所ノ過失ニ依リタルトキハ其ノ不納額ハ之ヲ徴收セス

第八條 郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

- 一 郵便局所ノ過失ニ因リ徵收シタル郵便料過徵額及誤納額
 - 二 特殊取扱ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局所ノ過失ニ依リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル特殊取扱ノ料金
 - 三 郵便局所ノ過失ニ依リ普通郵便ニ依リテ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遅レテ受取人ニ到達シタル別配達取扱ノ料金
 - 四 名宛變更又ハ取戻ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局所ノ過失ニ依リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル請求手数料金
 - 五 亡失又ハ失効ニ依リ損害賠償ヲ爲スヘキ場合ノ書留郵便物、小包郵便物、價格表記郵便物、現金取立郵便物ノ郵便ニ關スル料金
- 第九條 前條ノ料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日トス
- 第十條 第三種乃至第五種郵便物及小包郵便物ハ其ノ外部ニ左記ノ事項ニ限り之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添付スルコトヲ得
- 一 差出人及受取人ノ宿所氏名
 - 二 差出人及受取人ノ身分、職業、商標等

- 三 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語
 - 四 贈呈納本等ノ慣用語
 - 五 定期刊行物ニ前金切レ又ハ何月何日限リ前金滿了等ノ慣用語
 - 六 送達上必要ナル注意ヲ示ス語辭
- 前項郵便物ニハ其内部ニ前項各號ノ外尙左ノ事項ニ限り之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添付スルコトヲ得
- 一 名稱、番號、數量、金額、寸尺、重量
 - 二 定期刊行物、書籍印刷物、書、畫、圖、業務用書類ニ正誤、注意、點、線、批評ノ類
 - 三 圖、畫及寫眞ニ説明又ハ著色
 - 四 商品見本及雛形、農産物種子及博物學上ノ標本ニ生産地及種類ヲ確知スル爲必要ノ事項
 - 五 農産物種子ニ播種ノ時期及説明
- 前項以外ノ事項ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添付シタル郵便物ハ第三種乃至第五種郵便物ノ場合ニ在リテハ第一種郵便物トシテ取扱ヒ小包郵便物ノ場合ニ在リテハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十一條 郵便ニ關スル料金納付ノ爲メニ用ヰタル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ郵便局所ニ於テ之ヲ消印ス

第十二條 郵便物ハ其ノ品質、形狀ニ應シ危險、損害若ハ惡臭ヲ防止スルニ足ルヘキ適當ノ包裝ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 特種ノ包裝ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二節 通常郵便物

第十四條 書狀トハ全部或ハ幾部ヲ筆記シタルト印刷シタルトニ關セス特定ノ人ニ對スル通信文ニシテ郵便葉書ニ依ラサルモノヲ云フ

第十五條 郵便葉書ハ其ノ表面ニ左記ノ事項ニ限り之ヲ記載スルコトヲ得

- 一 差出人及受取人ノ宿所氏名、身分、職業及商標等
- 二 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語

郵便葉書ハ原形ノ儘使用シ契約書、委任狀若ハ受領證等ト爲サムカ爲メ收入印紙ヲ裏面ニ貼附スル場合ヲ除クノ外何等ノ物品ト雖添附スルヲ得ス

前二項ノ規定ニ違反シタル郵便葉書ハ第三種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十六條 往復葉書ニ依ル返信ノ際發信ニ使用シタル部分ヲ除去セサルトキハ郵便局所ニ於

テ之ヲ除去ス

第十七條 郵便葉書ノ料額印面ヲ汚斑シタルモノハ之ト同額ノ郵便切手ヲ貼付スルニ依リ郵便葉書ノ效力ヲ有ス其未納又ハ不足ノ場合ニ於テハ其ノ不納額ノ二倍ヲ徵收ス

第十八條 別ニ定ムル規定ニ依リ調製シタル私製葉書ハ通常葉書ト看做シ之ト同額ノ料金ヲ徵收ス

第十九條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ノ認可ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 定期刊行物ハ其刊行物初頁上部ニ其ノ名稱、發行期日、回数、逐號番號、發行年月日及何年何月何日第三種郵便物認可ノ文字、次頁以下ハ上部ニ其ノ名稱又ハ略記號、發行年月日及第三種郵便物認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但シ冊子トナシタル刊行物ハ最初及最終ノ頁面ノミニ印刷スルコトヲ得

第二十一條 定期刊行物ハ本紙ノ重量ニ超過セス本紙ト同性質ノ記事、廣告又ハ書、畫、圖ヲ印刷シ之ニ本紙ノ名稱、番號並ニ發行ノ年月日及附録ノ文字ヲ記入シ且冊子ト爲ササルモノニ限り附録トシテ之ヲ其ノ本紙ニ添附スルコトヲ得

第二十二條 緊急時事ヲ報道スル爲メ臨時ニ刊行スル定期刊行物ノ號外ハ定期刊行物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

定期刊行物ノ號外ハ之ニ本紙ノ名稱、發行ノ年月日、何年何月何日第三種郵便物認可及號外ノ文字ヲ記入スヘシ

第二十三條 定期刊行物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ本紙ノ重量ヲ超過セザルモノニ限リ之ヲ綴込又ハ貼附スルコトヲ得

第二十四條 印刷物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ其ノ印刷物ノ重量ヲ超過セザルモノニ限リ綴込又ハ貼附スルコトヲ得

第二十五條 業務用書類トハ全部若ハ一部ヲ筆書シタル各種ノ文書ニシテ特定ノ人ニ對スル通信文ノ性質ヲ有セザルモノヲ云フ

第二十六條 寫眞書畫圖及博物學上ノ標本ハ掛軸、扁額トナス等裝飾又ハ作爲ヲ加ヘザルモノヲ云フ

第二十七條 商品見本及雛形ハ見本又ハ雛形トシテ其ノ性質又ハ形狀ヲ示スニ足ルヘキ箇數又ハ分量ヲ限リ其ノ營業者ト往復スルモノヲ云フ

前項ノ郵便物ニハ其ノ外部ニ差出人又ハ受取人ノ營業名及其ノ表面ニ商品見本又ハ雛形ノ文字ヲ記載スヘシ

第三節 小包郵便物

第二十條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

一内地小包郵便料

同一郵便區内

金五錢

同一郵便區外

二百匁マテ拾錢

四百匁マテ拾五錢

六百匁マテ貳拾錢

一内地臺灣間小包郵便料

二百匁マテ參拾錢

四百匁マテ參拾五錢

六百匁マテ四拾錢

九百匁マテ五拾錢

一貫二百匁マテ六拾錢

一貫五百匁マテ七拾錢

第二十九條 小包郵便物ハ引受ノ際差出人ニ該郵便物ノ受領證ヲ交付シ該郵便物ノ配達又ハ還付ノ際受取人又ハ差出人ヨリ該郵便物ノ受領證ヲ差出サシム

第三十條 小包郵便物ヲ還付シ又ハ同一郵便區外ヘ轉送スルトキハ更ニ郵便料ヲ徵收ス

第三十一條 小包郵便物ノ郵便料ハ前納ニ限ル但シ該郵便物ヲ還付シ又ハ同一郵便區外ヘ轉送スル場合ハ後納トス此場合ニ於テ還付料及差出人ノ請求ニ依ル轉送料ハ差出人ヨリ徵收シ受取人ノ請求ニ依ル轉送料ハ受取人ヨリ徵收ス

第三十二條 小包郵便物ノ差出人ハ其ノ郵便物差出ノ際名宛地ノ郵便局所ニ於テ配達ヲ遂クル能ハサル場合ニ於ケル該郵便物ノ轉送又ハ棄却ノ處分ニ付豫メ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 小包郵便物ノ受取人ハ該郵便物ノ轉送ヲ名宛地ノ郵便局所ニ請求スルコトヲ得

第二章 郵便物ノ特殊取扱

第一節 總則

第三十四條 特殊ノ取扱ヲ要スル郵便ニ關スル料金ハ特別ノ規定アル場合ノ外凡テ前納トス
第三十五條 郵便物ノ特殊ノ取扱ニ要スル料金ハ左ノ如シ

一 別配達料 一箇ニ付 〔市内ハ金拾錢 市外ハ金參拾錢〕

他ノ郵便區内ニ配達スルトキハ差出人指定ノ配達局ト名宛地所轄ノ郵便局トノ里程ニ應シ別ニ一里迄毎ニ金拾五錢ヲ加徴ス
解船料ハ市内市外ニ拘ラス別ニ其ノ實費額ヲ受取人ヨリ徴收ス受取人之ヲ納付セサルトキハ差出人ヨリ追徴ス

二 留置通知料 一箇ニ付 金參錢

三 配達證明料 一箇ニ付 金參錢

四 書留料 一箇ニ付 金七錢

五 價格表記料 〔表記金額拾圓迄ハ金拾五錢拾圓以上ハ其ノ超過シタル額ニ對シ拾圓迄毎ニ金五錢〕

六 代金引換料 一口ニ付 金五錢

外ニ取立金送達料トシテ其ノ引換金額拾圓迄ハ金五錢拾圓以上百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シ拾圓迄毎ニ金四錢百圓以上三百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シ拾圓迄毎ニ金參錢

七 現金取立料 一口ニ付 金五錢

外ニ取立金送達料トシテ代金引換ト同一ノ割合ニ依ル料額

第三十六條 左記ノ郵便物ハ各其ノ下ニ記載セル文字ヲ表面看易キ場所ニ記入スヘシ

一 別配達郵便物 別配達又ハ何局別配達

二 留置郵便物 留置若ハ何局留置又ハ留置通知

三 配達證明郵便物 配達證明

四 書留郵便物 書留

五 價格表記郵便物 價格表記金何程

六 代金引換委託郵便物 代金引換金何程

第二節 別配達

第三十七條 書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ別配達ト爲スコトヲ得

第三十八條 別配達ノ郵便物ハ通常ノ配達時刻ニ拘ラス直ニ特使ヲ以テ之ヲ配達ス
別配達ノ郵便物ニシテ配達ノ際受取人不在其ノ他ノ事故ニ依リ交付スルコト能ハサルトキ
ハ別配達ノ效力ヲ失フ

第三節 留置

第三十九條 留置郵便物ハ差出人指定ノ郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス

第四十條 留置郵便物ノ差出人ハ留置郵便局所ヨリ其ノ受取人ニ該郵便物到着ノ通知ヲ請求
スルコトヲ得

第四十一條 郵便物ノ留置期間ハ三十日トス

交通不便ニシテ其ノ受取人前項ノ期間ニ出頭シ能ハスト認ムル地区宛テタル郵便物ニ限リ
特ニ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第四節 配達證明

第四十二條 書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ配達證明ト爲スコトヲ得

第四十三條 配達郵便局所ニ於テ配達證明郵便物ノ配達ヲ了シタルトキハ其ノ配達證明書
ヲ差出人ニ送付ス

第五節 書留

第四十四條 通常郵便物ハ之ヲ書留ト爲スコトヲ得但シ價格表記ト爲シタルモノハ書留ト爲
スコトヲ得ス

第四十五條 書留郵便物ノ受授ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第六節 價格表記

第四十六條 有價ノ物件ヲ封入シタル郵便物ハ之ヲ價格表記ト爲スコトヲ得但シ書留ト爲シ
タル郵便物ハ價格表記ト爲スコトヲ得ス

價格表記金額ノ制限ハ金千圓トス

第四十七條 價格表記郵便物ノ受授ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第七節 代金引換

第四十八條 價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ代金引換ト爲シ其ノ郵便物ト代金トノ引
換ヲ郵便局所ニ委託スルコトヲ得

代金引換郵便ニ依ル金額ノ制限ハ金參百圓トス

第四十九條 代金引換郵便物ハ到着郵便局所ニ留置キ其ノ旨ヲ受取人ニ通知シ受取人ノ出頭
ヲ俟テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス其留置期間ハ十五日間トス

前項留置ニ關シテハ第四十一條第二項第八十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十條 取立郵便局所ニ於テ代金引換郵便物ノ代金ヲ其ノ受取人ヨリ取立テタルトキハ引
受郵便局所ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及該郵便物ノ受領證並ニ取立
金送達料ヲ差出シ之レト引換ニ取立金ノ交付ヲ受ケヘシ

第五十一條 代金引換郵便物ノ受領證ヲ亡失シタルトキハ差出人ハ其ノ事由ヲ記載シタル證
明書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ郵便局所ハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトアルヘシ

第五十二條 代金引換郵便物ノ差出人代金引換ノ取消ヲナサントスルトキハ第七十九條郵便
物取戻ノ請求ニ關スル料金又代金引換金額ノ變更ヲナサントスルトキハ同條郵便物名宛變
更ノ請求ニ關スル料金ト同額ノ料金ヲ前納シテ之ヲ請求スルコトヲ得

第八節 現金取立

第五十三條 代金受領證、株式配當券、公債又ハ社債ノ利券、保險掛金受領證ニシテ持參人ニ
支拂ハルヘキモノハ現金取立トシテ其ノ金額ノ取立ヲ郵便局所ニ委託スルコトヲ得

現金取立郵便ニ依ル金額ノ制限ハ一口ニ付金參百圓トス

第五十四條 現金取立ハ一口ニ付二通以上ノ證券ヲ委託スルコトヲ得ス但シ同一ノ債權者
屬シ同一ノ債務者ヨリ同時ニ取立テ得ヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條 現金取立ノ委託ヲ爲サムト欲スル者ハ現金取立委託書ト共ニ金額ヲ取立ツヘキ
證券ヲ郵便局所ニ差出シ郵便局所ヨリ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第五十六條 一定ノ期日ニ取立ツヘキ證券ハ債務者所在地ニ達スヘキ日數ヲ除キ該期日ヨリ
早クモ十五日遅クモ五日以前ニ之ヲ委託スヘシ

第五十七條 現金取立郵便ニ依ル證券ヲ債務者ニ呈示ノ際其ノ金額ヲ取立ツルコトヲ得サル
場合ニ於テ直ニ其ノ證券ノ還付ヲ望ム者ハ委託書ニ其ノ旨ヲ記入シテ差出スヘシ

第五十八條 現金取立郵便物ノ到着局所ハ債務者ニ委託證券呈示ノ期日ヲ豫告シ該期日ニ債
務者ノ居所ニ就テ證券引換ニ其ノ金額ノ支拂ヲ求ム若シ債務者其ノ居所ヲ移轉シ移轉先同一
取立區域内ナルトキハ其ノ移轉先ニ就テ同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十九條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ支拂ノ拒絶ニ依ルニ在ラスシテ其ノ金額ヲ取立ツ
ルコト能ハサルトキハ郵便局所ハ七日以内ノ期間ニ指定ノ郵便局所ニ出頭シテ該金額ノ支
拂ヲ爲スヘキ旨ヲ記載シタル告知書ヲ其ノ居所ニ殘置ス但シ第五十七條ニ依ル請求アル場
合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ所在不明ナルトキ若ハ其ノ取立區域外ニ移轉タル
トキ又ハ債務者其ノ金額ノ支拂ヲ拒絶シタルトキ又ハ其ノ金額ヲ所定ノ期間内ニ支拂ハ